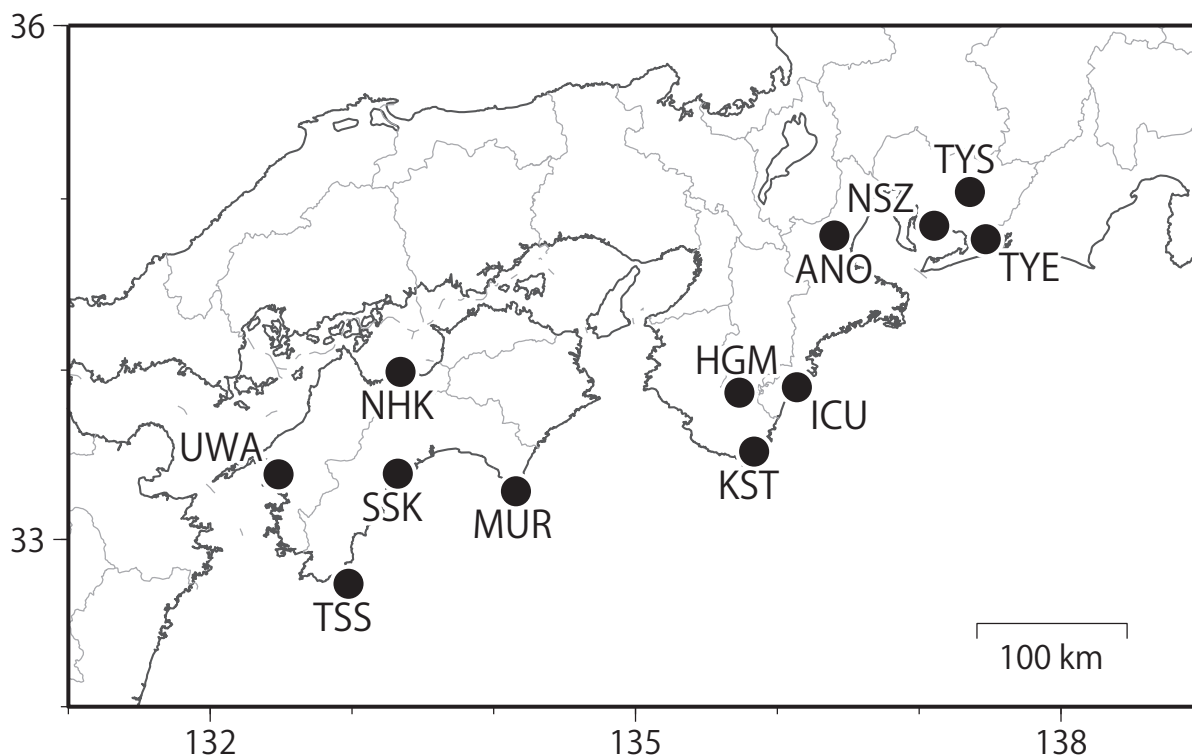


【第90回】南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会  
【第468回】地震防災対策強化地域判定会

—産業技術総合研究所資料—

令和7年2月7日

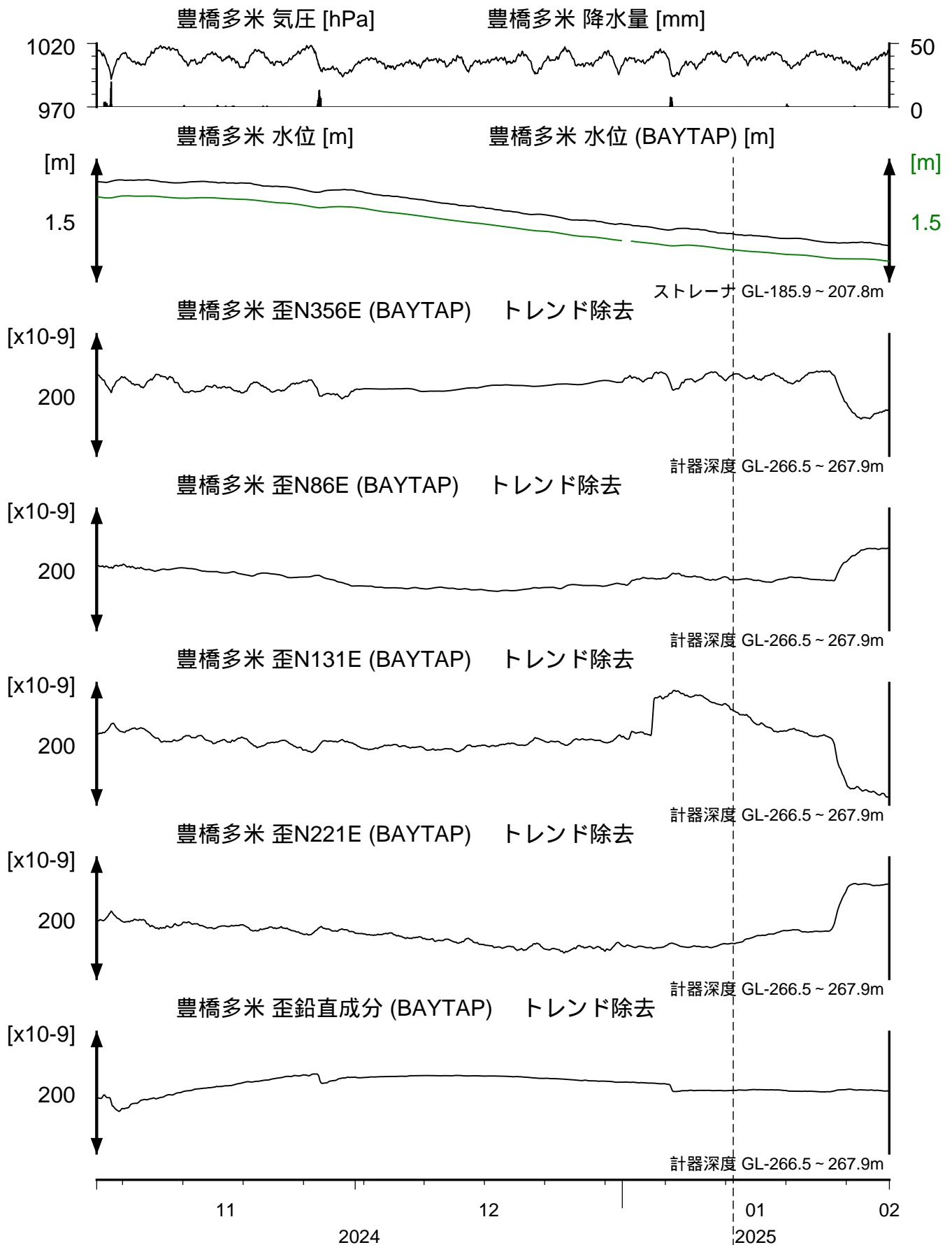




愛知県～紀伊半島～四国における地下水等総合観測施設の分布図

文字コード	名称	ふりがな	市区町村	ページ
TYE	豊橋多米	とよはしため	愛知県豊橋市	3
TYS	豊田神殿	とよたかんの	愛知県豊田市	4
NSZ	西尾善明	にしおぜんみょう	愛知県西尾市	5
ANO	津安濃	つあのう	三重県津市	6
ICU	熊野磯崎	くまのいそざき	三重県熊野市	7
KST	串本津荷	くしもとつが	和歌山県東牟婁郡串本町	8
HGM	田辺本宮	たなべほんぐう	和歌山県田辺市	9
MUR	室戸岬	むろとみさき	高知県室戸市	10
NHK	新居浜黒島	にいしまくろしま	愛媛県新居浜市	11
SSK	須崎大谷	すさきおおたに	高知県須崎市	12
TSS	土佐清水松尾	とさしみずまつお	高知県土佐清水市	13
UWA	西予宇和	せいようわ	愛媛県西予市	14

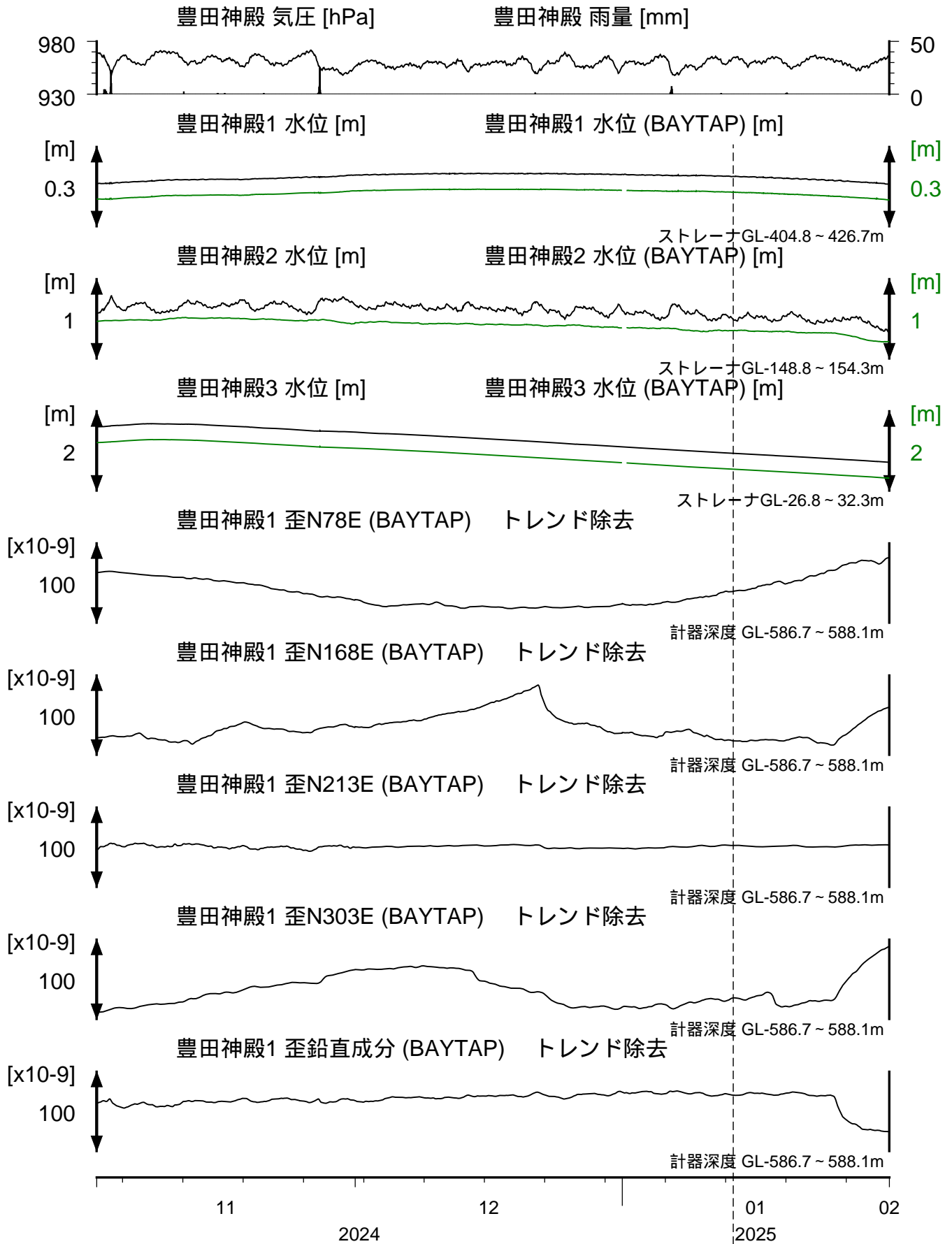
# TYE 豊橋多米 地下水位・歪 (時間値) (2024/11/01 00:00 - 2025/02/01 00:00 (JST))



コメント：特記事項なし。

2025.1.13.  
日向灘の地震  
M6.6

TYS 豊田神殿 地下水位・歪（時間値）  
(2024/11/01 00:00 - 2025/02/01 00:00 (JST))



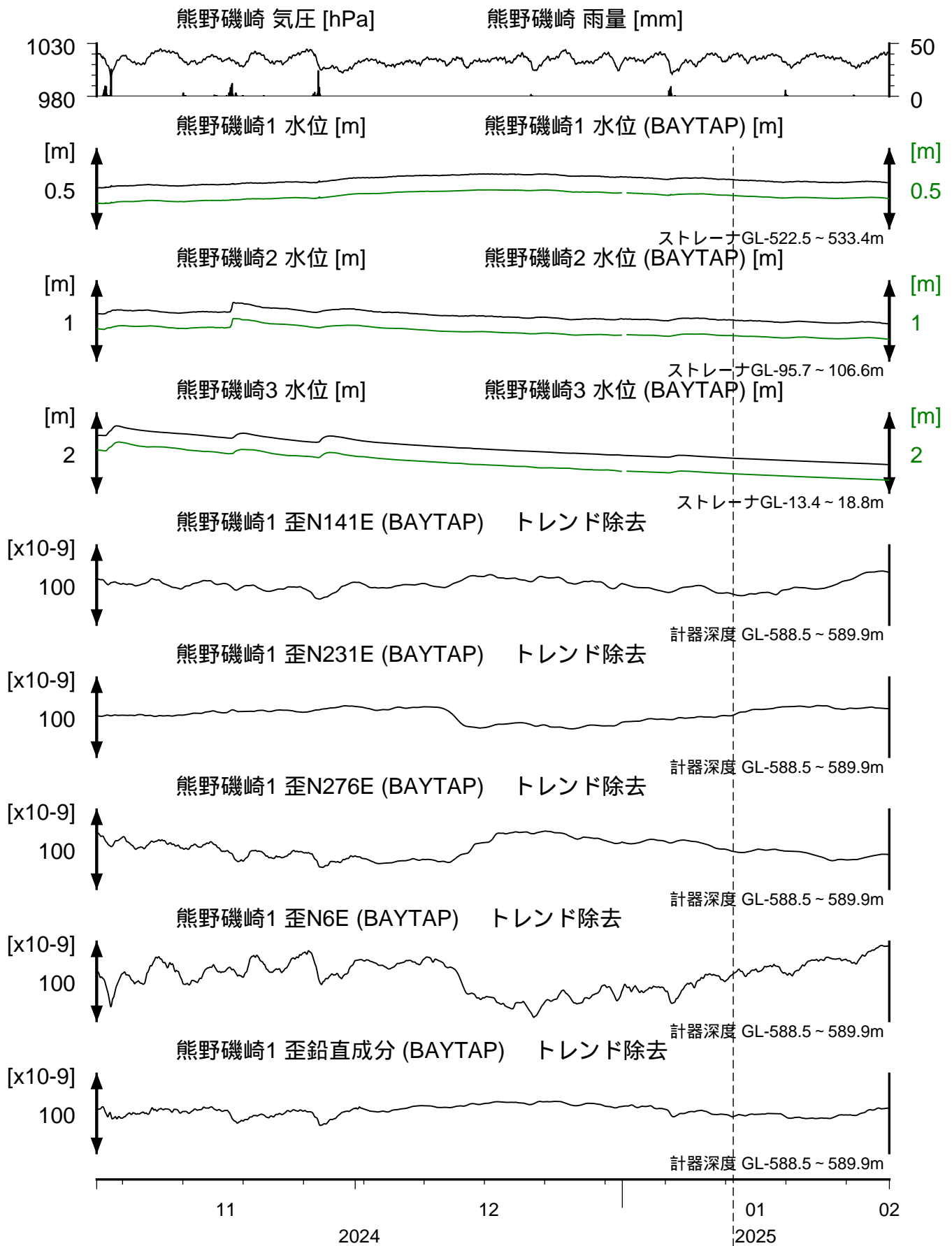
コメント：特記事項なし。

2025.1.13.  
日向灘の地震  
M6.6





# ICU 熊野磯崎 地下水位・歪（時間値） (2024/11/01 00:00 - 2025/02/01 00:00 (JST))

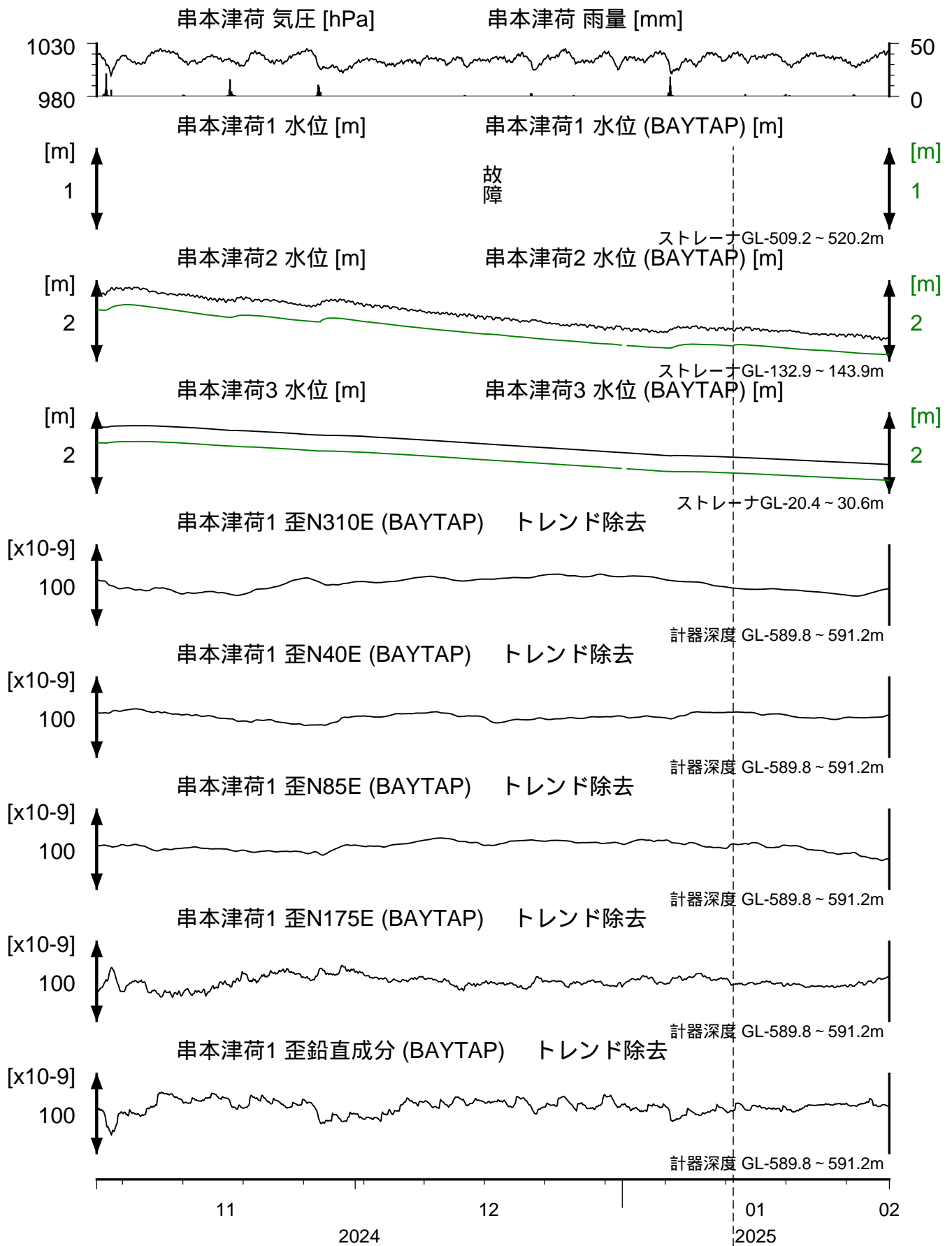


コメント：特記事項なし。

2025.1.13.  
日向灘の地震  
M6.6

# KST 串本津荷 地下水位・歪（時間値）

(2024/11/01 00:00 - 2025/02/01 00:00 (JST))



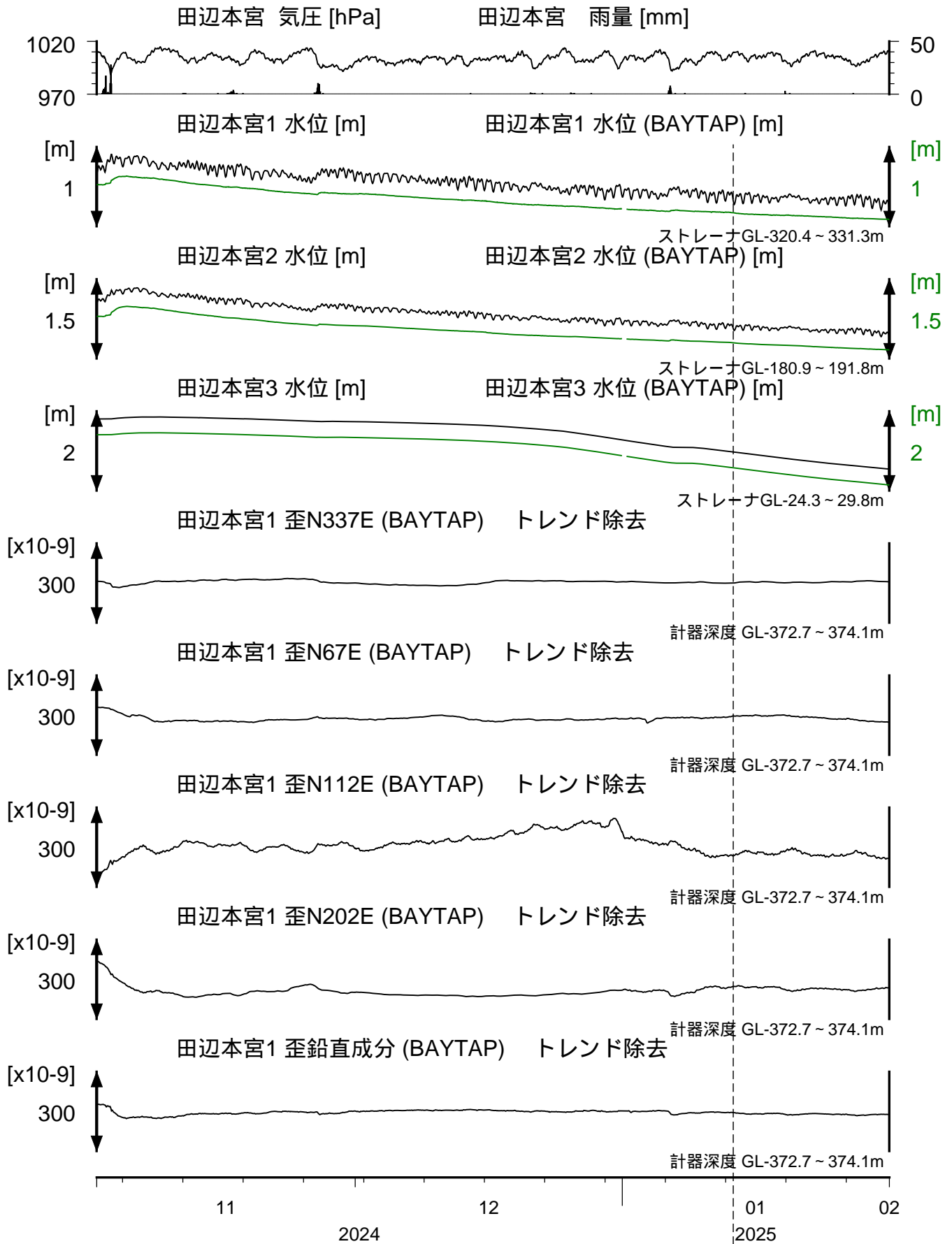
コメント：特記事項なし。

2025.1.13.  
日向灘の地震  
M6.6



# HGM 田辺本宮 地下水位・歪 (時間値)

(2024/11/01 00:00 - 2025/02/01 00:00 (JST))

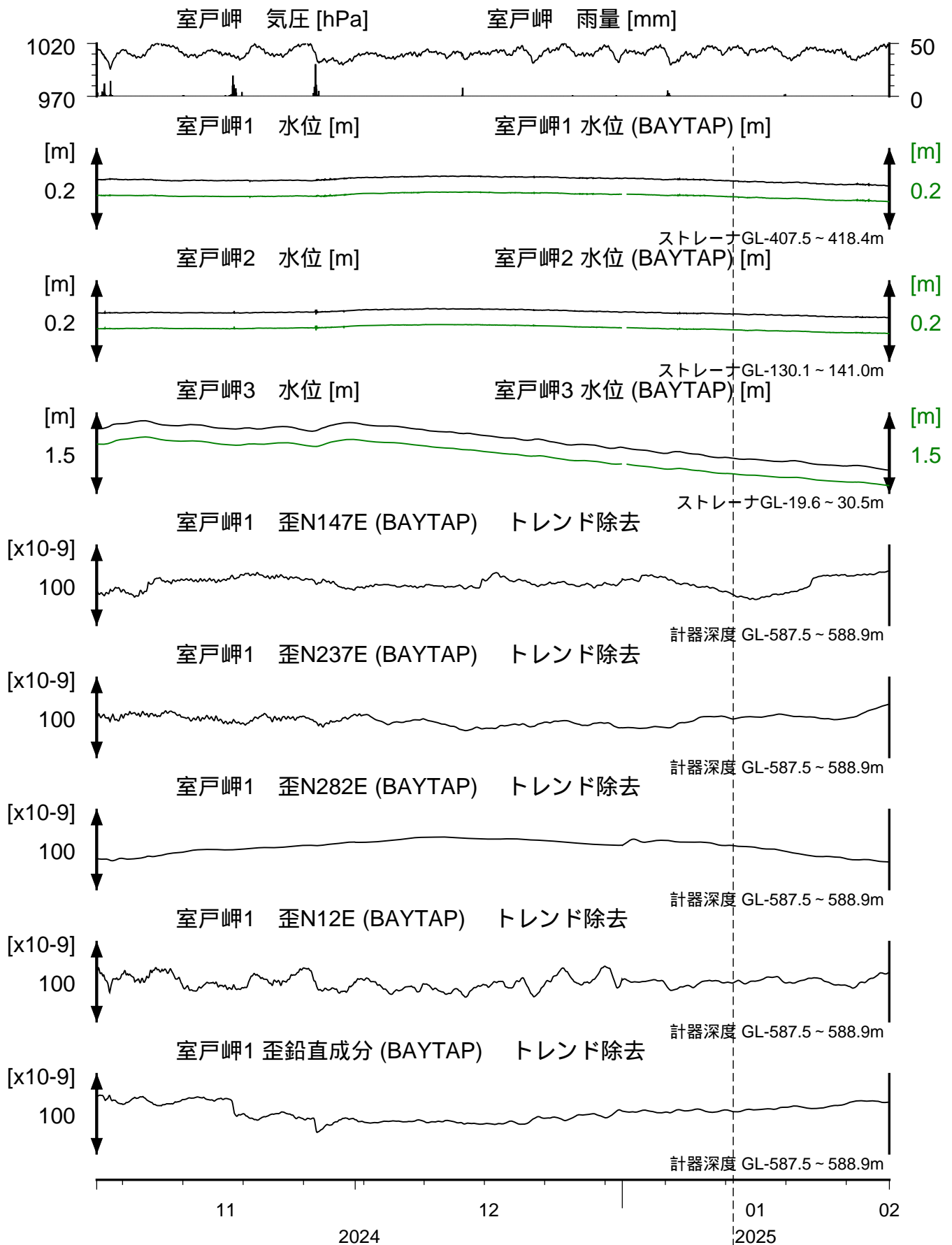


コメント：特記事項なし。

2025.1.13.  
日向灘の地震  
M6.6

# MUR 室戸岬 地下水位・歪 (時間値)

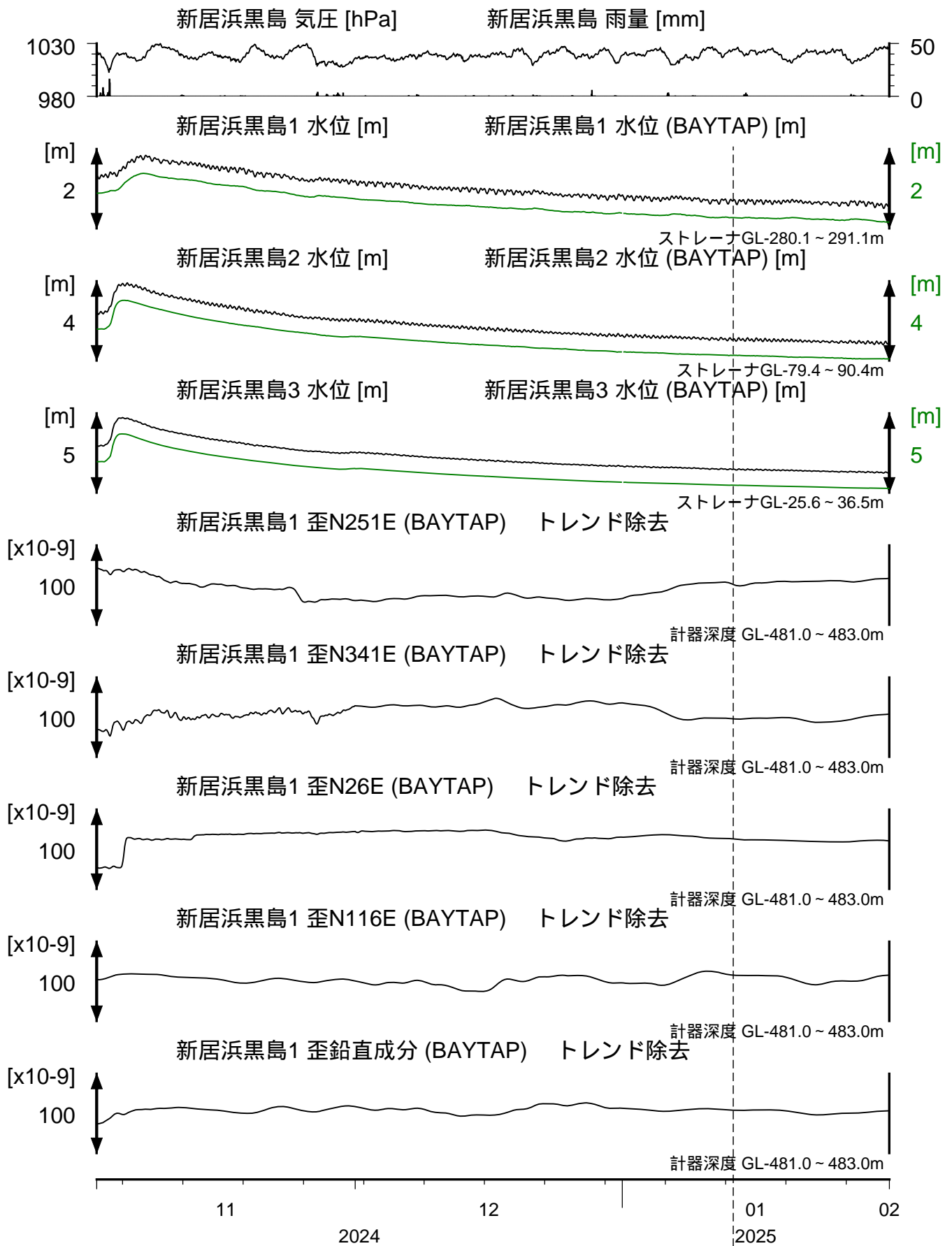
(2024/11/01 00:00 - 2025/02/01 00:00 (JST))



コメント：特記事項なし。

2025.1.13.  
日向灘の地震  
M6.6

# NHK 新居浜黒島 地下水位・歪 (時間値) (2024/11/01 00:00 - 2025/02/01 00:00 (JST))

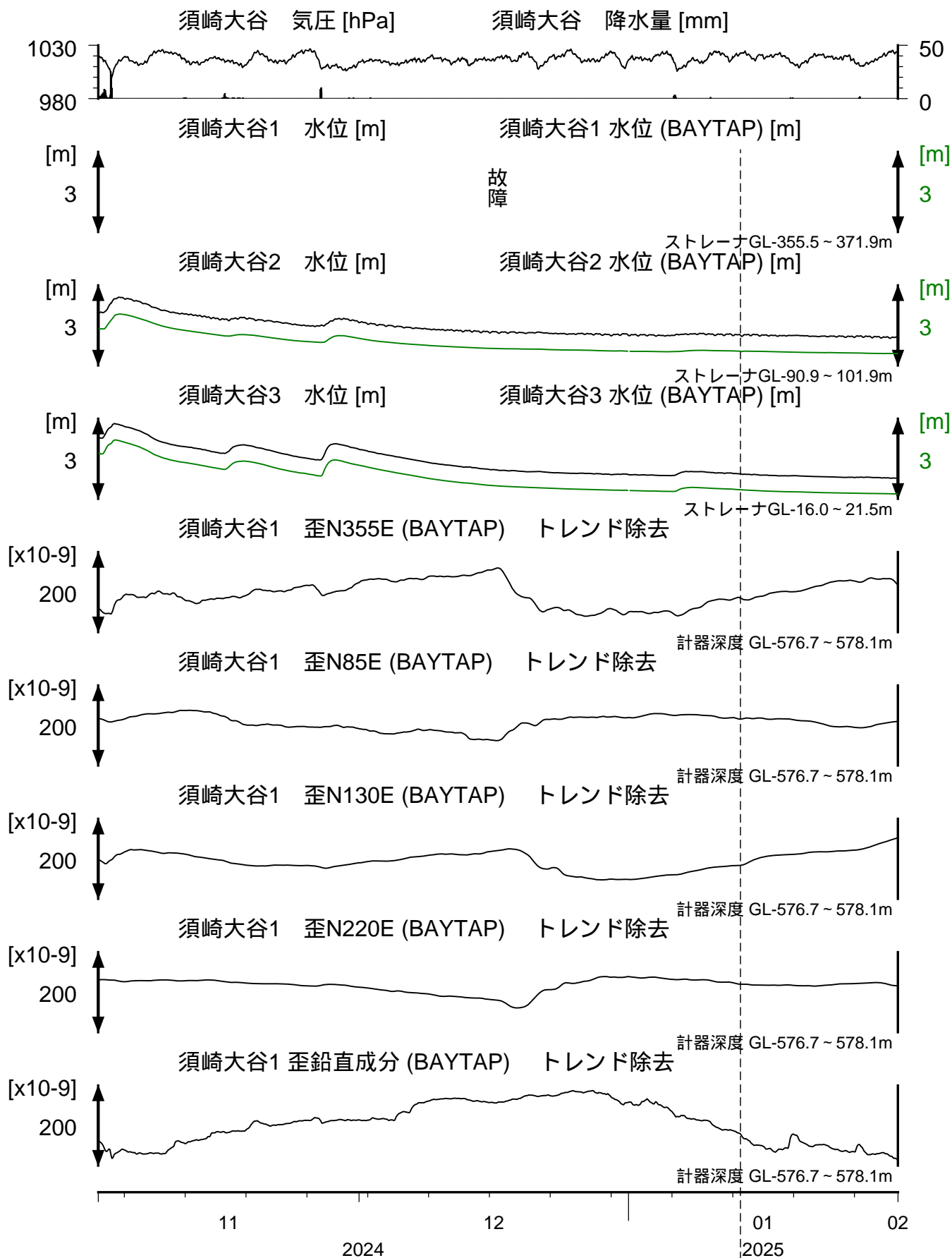


コメント：特記事項なし。

2025.1.13.  
日向灘の地震  
M6.6

# SSK 須崎大谷 地下水位・歪 (時間値)

(2024/11/01 00:00 - 2025/02/01 00:00 (JST))

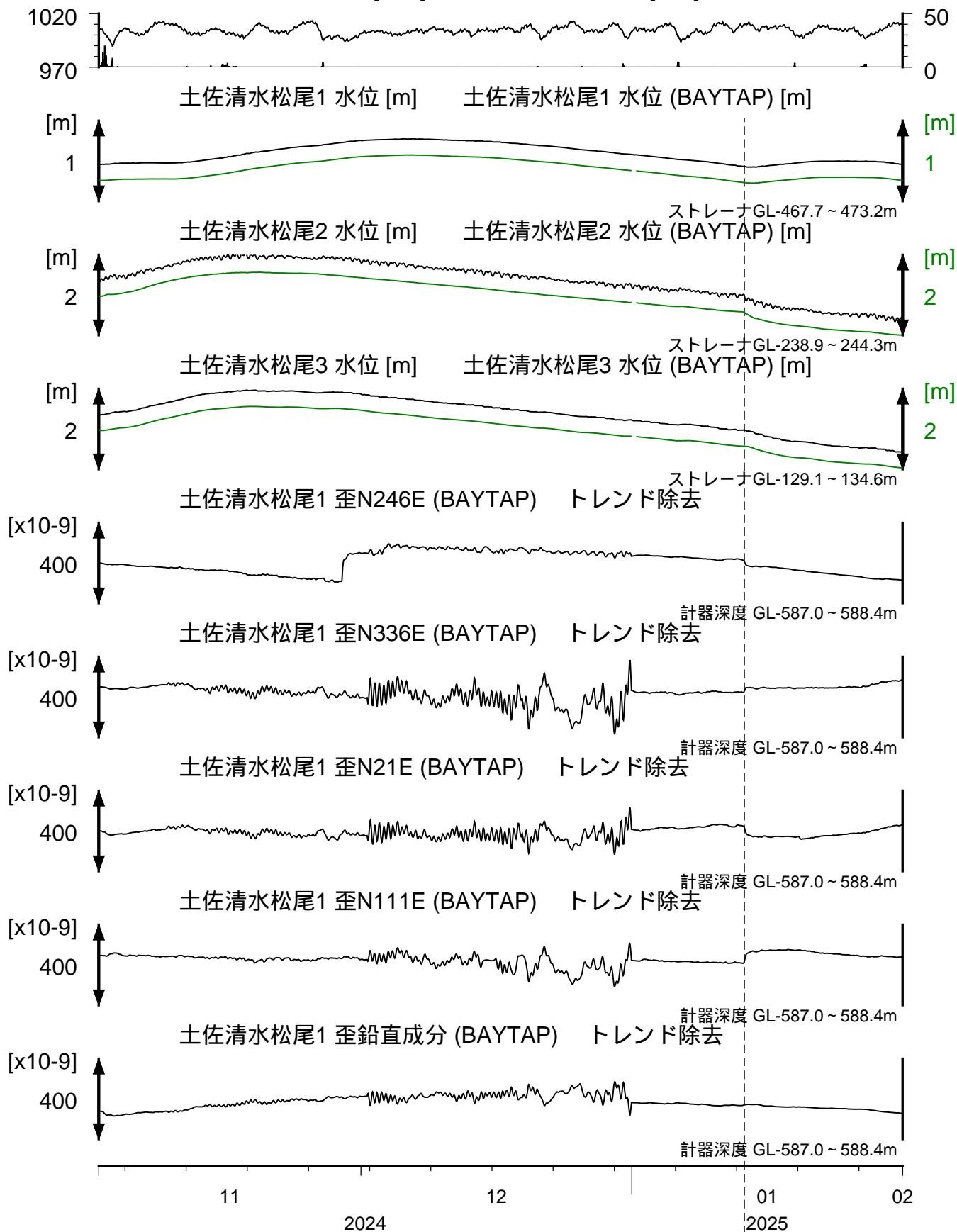


コメント：特記事項なし。

2025.1.13.  
日向灘の地震  
M6.6

# TSS 土佐清水松尾 地下水位・歪 (時間値) (2024/11/01 00:00 - 2025/02/01 00:00 (JST))

土佐清水松尾 気圧 [hPa] 土佐清水松尾 雨量 [mm]

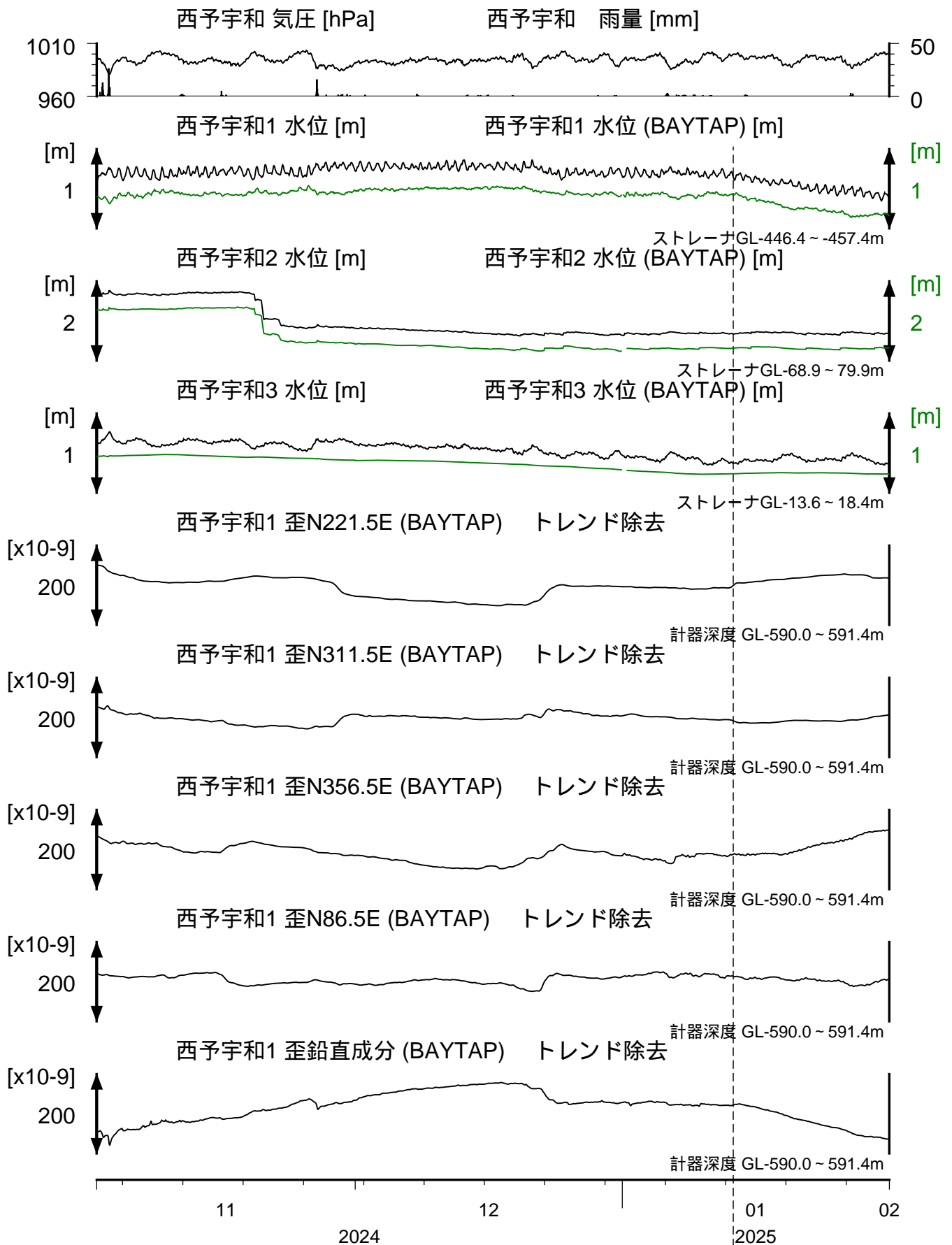


コメント：特記事項なし。

2025.1.13.  
日向灘の地震  
M6.6

# UWA 西予宇和 地下水位・歪 (時間値)

(2024/11/01 00:00 - 2025/02/01 00:00 (JST))



コメント：特記事項なし。

2025.1.13.  
日向灘の地震  
M6.6

図 1 は 2025 年 1 月 3 日から 1 月 23 日の間の、東海地域から紀伊半島における深部低周波地震活動である。2025 年 1 月 12 日から 1 月 17 日にかけて、周辺の産総研・気象庁・防災科研の観測点でトレンド変化が観測された（図 2）。これらの結果は BAYTAP-G により気圧応答成分、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除き、2025 年 1 月 3 日から 1 月 11 日のデータを用いて 1 次トレンドを除去したものである。

図 3 は図 2[A]の変化を説明する短期的 SSE の断層モデルの推定結果（Mw 5.9）である。今回の活動域付近における最近の短期的 SSE は、図 3 に灰色矩形 1-4 で示したとおりである。

2025 年 1 月 24 日午後から 1 月 28 日にかけて、東海地域から紀伊半島で深部低周波地震が観測された（図 4）。図 5 は周辺の産総研・気象庁・静岡県・防災科研の観測点における歪・傾斜・地下水位の観測結果である。これらの結果は BAYTAP-G により気圧応答成分、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除き、2025 年 1 月 17 日から 1 月 23 日のデータを用いて 1 次トレンドを除去したものである。

図 6-8 はそれぞれ図 5[A]-[C]の変化を説明する短期的 SSE の断層モデルの推定結果（順に Mw 5.6, 6.0, 5.5）である。今回の活動域付近における最近の短期的 SSE は、図 5-8 に灰色矩形 1-5 で示したとおりである。

2025 年 1 月 5 日から 1 月 10 日にかけて、四国地域で深部低周波地震が観測された（図 9）。図 10 は周辺の産総研・防災科研の観測点における歪・傾斜の観測結果である。これらの結果は BAYTAP-G により気圧応答成分、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除き、2024 年 12 月 30 日から 2025 年 1 月 5 日のデータを用いて 1 次トレンドを除去したものである。

図 11 は図 10[A]の変化を説明する短期的 SSE の断層モデルの推定結果（Mw 5.8）である。今回の活動域付近における最近の短期的 SSE は、図 11 に灰色矩形 1, 2 で示したとおりである。

### 解析方法

短期的 SSE の断層面推定には、各観測点の水平歪 4 成分、体積歪、地下水圧、もしくは傾斜 2 成分の記録を用いる。地下水圧は、O1 および M2 分潮の振幅を BAYTAP-G [Tamura et al., 1991] により計算し、GOTIC2 [Matsumoto et al., 2001] により推定した地球固体潮汐および海洋荷重潮汐（O1 および M2 分潮）との振幅比を用いて、体積歪に変換する。歪・地下水・傾斜ともに、観測波形から BAYTAP-G により、気圧応答成分、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除く。また、イベント直前の期間を用いて 1 次トレンドも取り除く。微動活動も参考にして、数時間～半日単位で活動開始・終了時期を判断し、その期間の変化量を短期的 SSE による変化量とする。その際、歪については Matsumoto et al. [2010] の手法で理論潮汐歪を用いてキャリブレーションを行っている。

断層面の推定は、板場ほか[2012]の手法を用いて次の 2 段階で行う。1 段階目では、断層面の位置（0.1° 間隔）とすべり量（1-50 mm）を可変とする。幅・長さともに 20 km に固定した断層面をフィリピン海プレート境界面[弘瀬ほか, 2007]上で動かし、各位置での最適なすべり量を探す。結果を示す図には、それぞれの位置で残差を最小にするすべり量を与えたときの、観測値とそのすべり量による計算値（Okada [1992]による）との残差の総和の分布を示している。これにより、短期的 SSE が生じている可能性が高い領域を絞り込むとともに、次の 2 段階目で推定された結果の任意性を確認することができ

る。2段階目では、1段階目で絞り込んだ領域付近で、断層面の位置 ( $0.1^\circ$  間隔)・すべり量 (1-50 mm)・長さ (10-80 km の間で 1 km 間隔) および幅 (10-50 km の間で 1 km 間隔) を可変として残差を最小にする解を求める。ただし、計算に使用している観測点数が少ない場合や、断層面と観測点配置の関係によっては解の任意性が高くなるので注意が必要である。

なお、残差はノイズレベルによって規格化している。これは異種の観測値を統合するための処置である。ノイズレベルの定義は、気圧応答、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除いた後（微動活動が活発な期間および周辺の日雨量 50 mm を超える時期を除く）の 24 時間階差の  $2\sigma$  である。

深部低周波微動の検出・震源決定には、エンベロープ相関法を用いている。

## 謝辞

短期的 SSE の断層モデル推定には、防災科研 Hi-net 高感度加速度計（傾斜計）および気象庁の多成分歪計および体積歪計の記録とキャリブレーション係数を使用しました。微動の解析には、防災科研 Hi-net、気象庁、東京大学、京都大学、名古屋大学、高知大学、九州大学の地震波形記録を使用しました。低周波地震の震央位置表示には、気象庁の一元化カタログを使用しました。ここに記して感謝します。

## 参考文献

弘瀬冬樹, 中島淳一, 長谷川昭 (2007), Double-Difference Tomography 法による西南日本の 3 次元地震波速度構造およびフィリピン海プレートの形状の推定, *地震* **2**, **60**, 1-20.

板場智史, 松本則夫, 北川有一, 小泉尚嗣, 松澤孝紀, 歪・傾斜・地下水統合解析による短期的スロースリップイベントのモニタリング, *日本地球惑星連合 2012 年大会*, 千葉, 5 月, 2012.

Matsumoto, K., T. Sato, T. Takanezawa, and M. Ooe, GOTIC2: A Program for Computation of Oceanic Tidal Loading Effect, *J. Geod. Soc. Japan*, **47**, 243-248, 2001.

Matsumoto, N., O. Kamigaichi, Y. Kitagawa, S. Itaba, and N. Koizumi (2010), In-situ Calibration of Borehole Strainmeter Using Green's Functions for Surface Point Load at a Depth of Deployment, *Eos, Trans. AGU*, Abstract G11A-0626.

Okada, Y. (1992), Internal deformation due to shear and tensile faults in a half-space, *Bull. Seismol. Soc. Am.*, **82**, 1018-1040.

Tamura, Y., T. Sato, M. Ooe and M. Ishiguro (1991), A procedure for tidal analysis with a Bayesian information criterion, *Geophys. J. Int.*, **104**, 507-516.



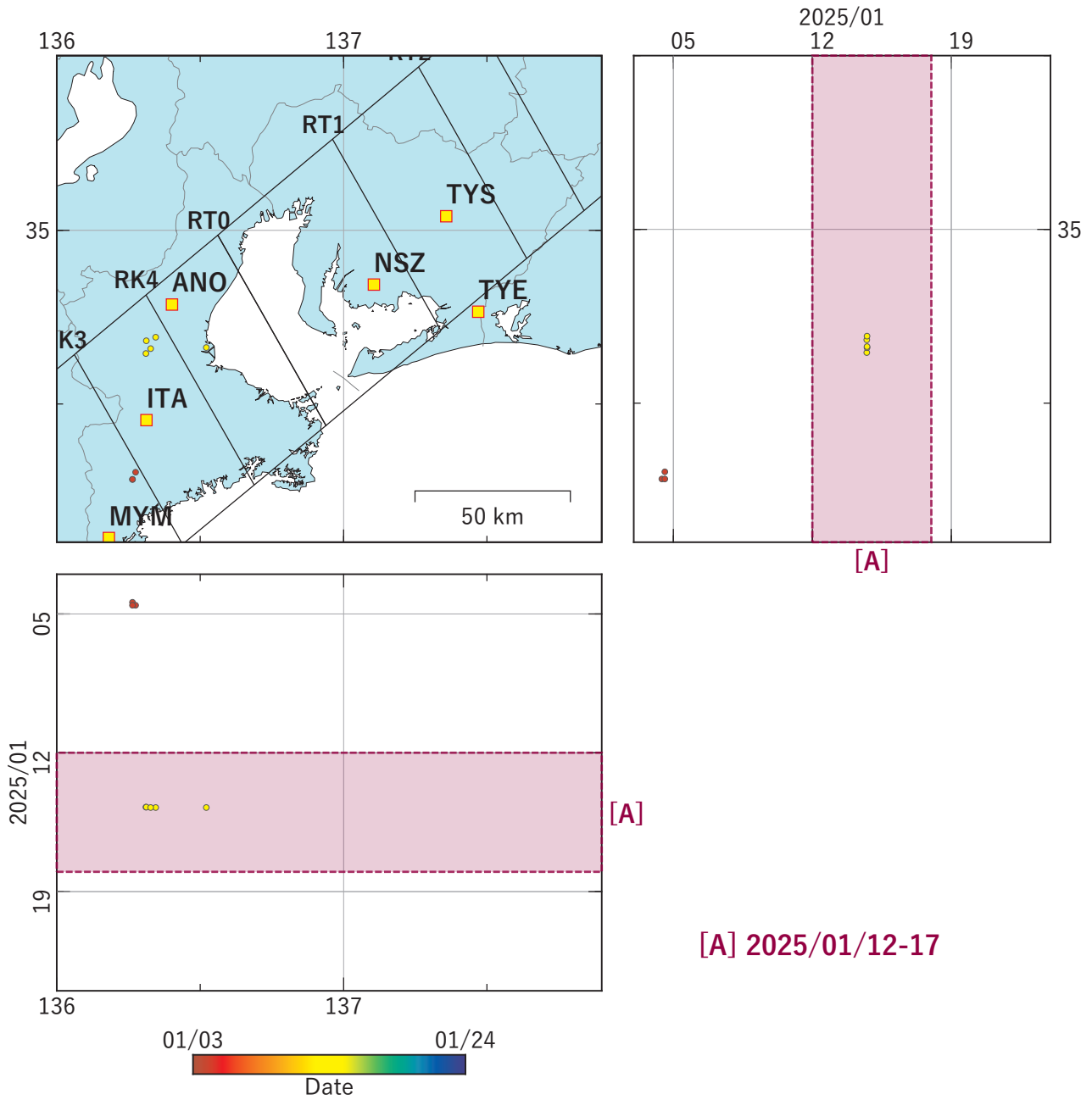


図1 東海地域から紀伊半島における深部低周波地震の時空間分布図（2025/01/03 00:00:00-2025/01/24 00:00:00 (JST)）。気象庁カタログによる。  
 （観測点） TYS: 豊田神殿, TYE: 豊橋多米, NSZ: 西尾善明, ANO: 津安濃, ITA: 松阪飯高, MYM: 紀北海山

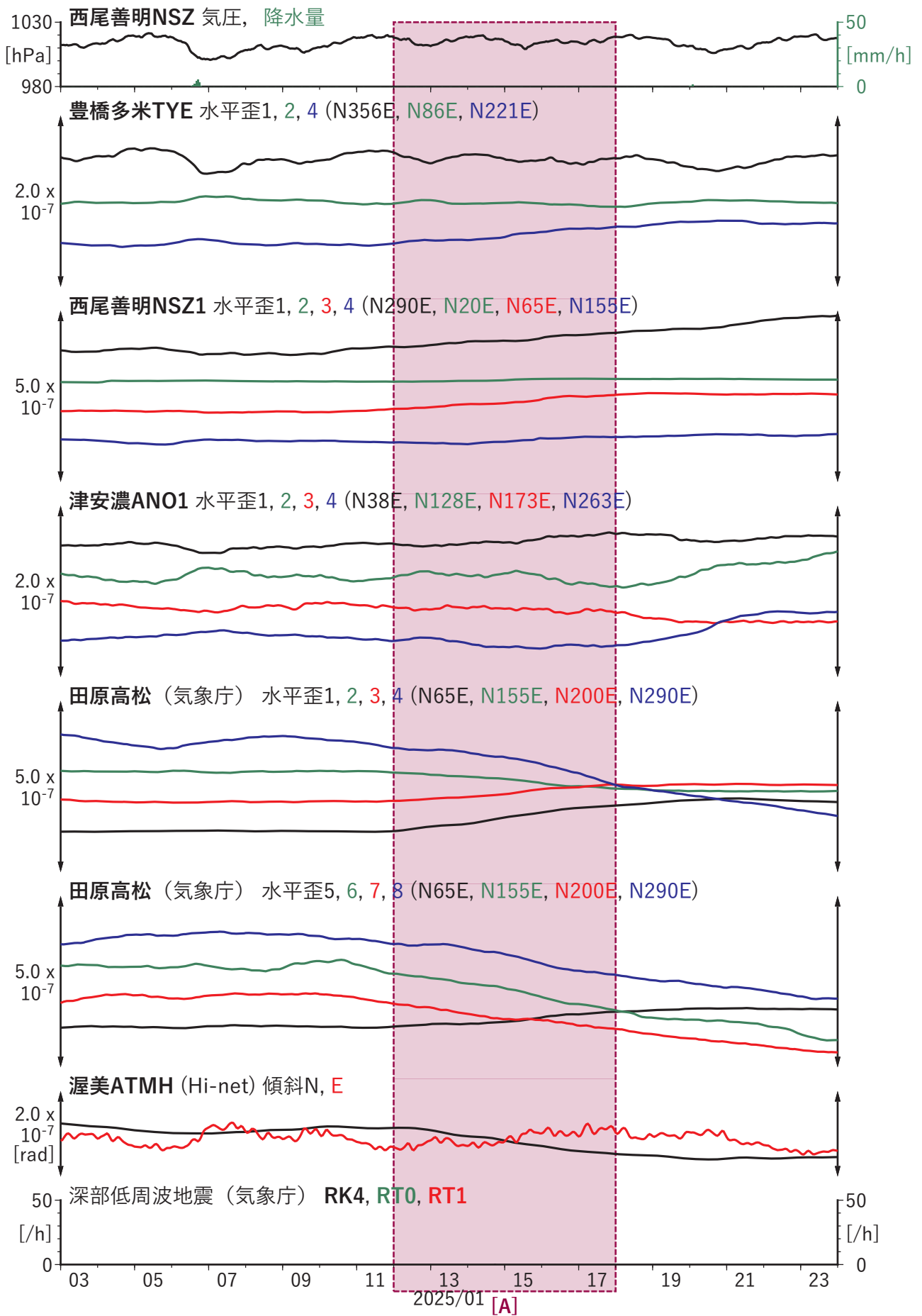
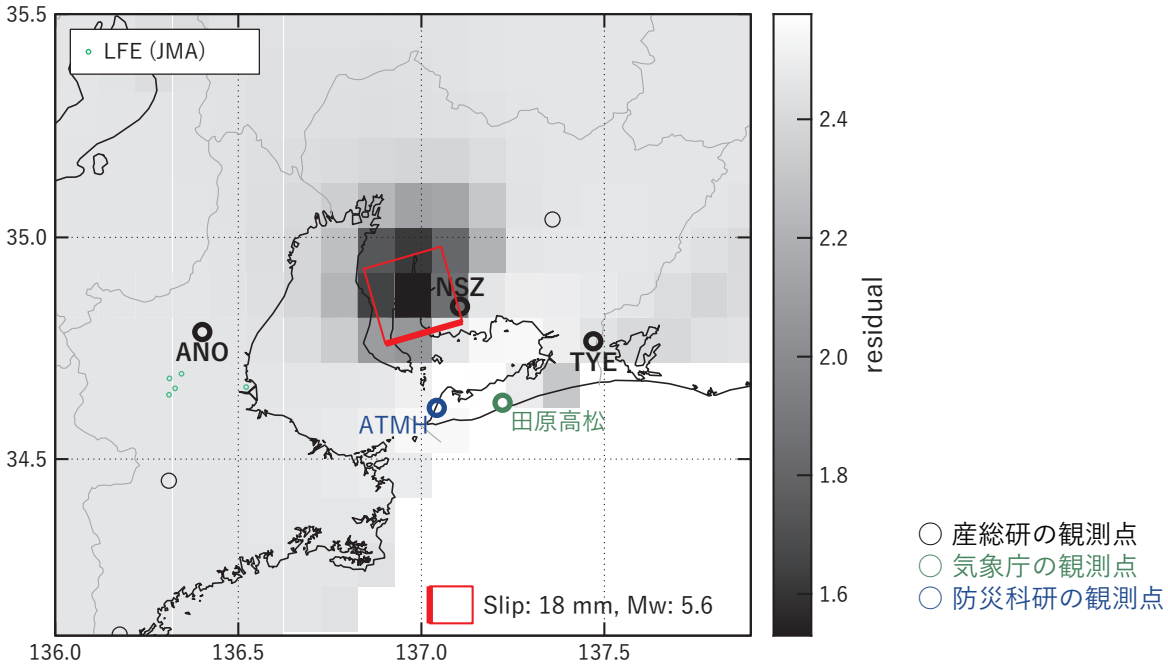


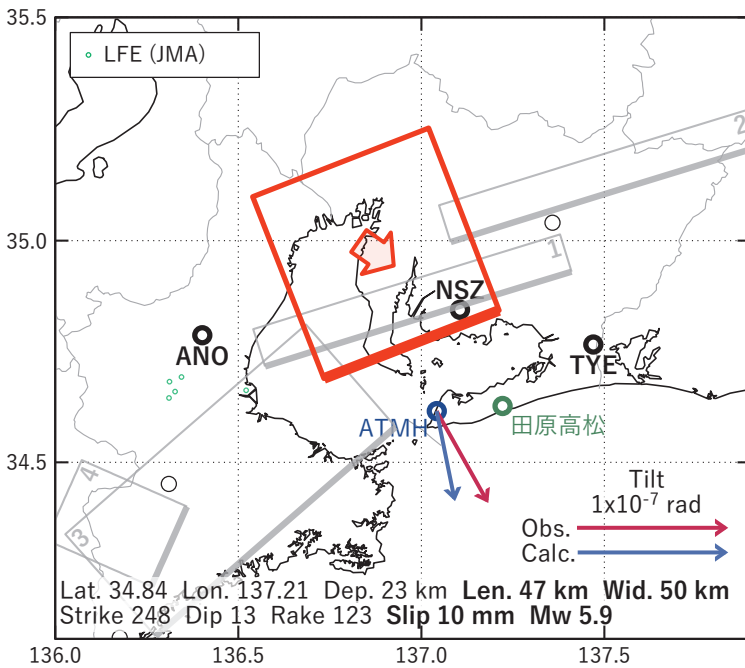
図2 歪・傾斜の時間変化 (2025/01/03 00:00-2025/01/24 00:00 (JST))

[A] 2025/01/12-17

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

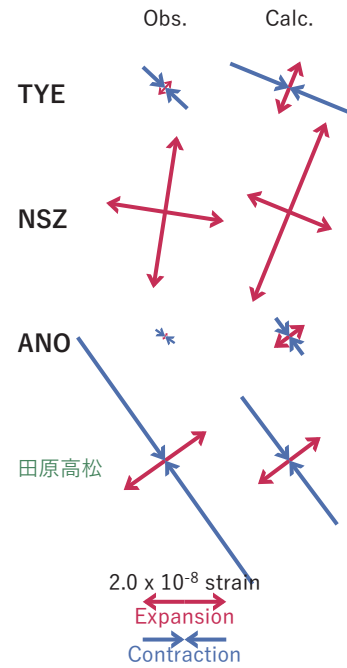


図3 2025/01/12-17の歪・傾斜変化(図2[A])を説明する断層モデル。

- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。
  - 1: 2024/08/14PM-16AM (Mw 5.4), 2: 2024/08/13-16 (Mw 5.4), 3: 2024/12/11-13AM (Mw 5.8),
  - 4: 2024/12/13PM-17AM (Mw 5.8)
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

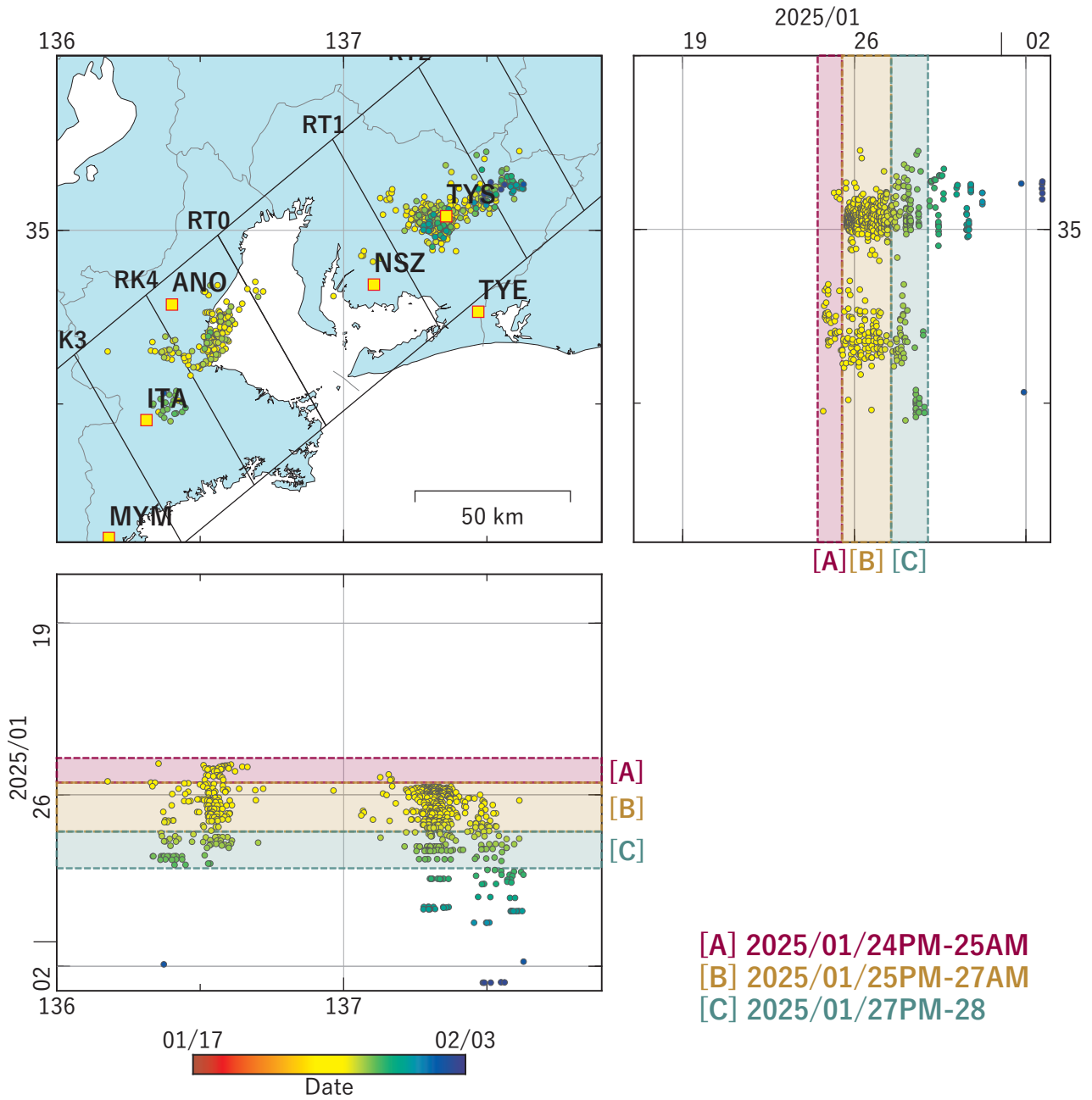


図4 東海地域から紀伊半島における深部低周波地震の時空間分布図（2025/01/17 00:00:00-2025/02/03 00:00:00 (JST)）。気象庁カタログによる。

（観測点） TYS: 豊田神殿, TYE: 豊橋多米, NSZ: 西尾善明, ANO: 津安濃, ITA: 松阪飯高, MYM: 紀北海山

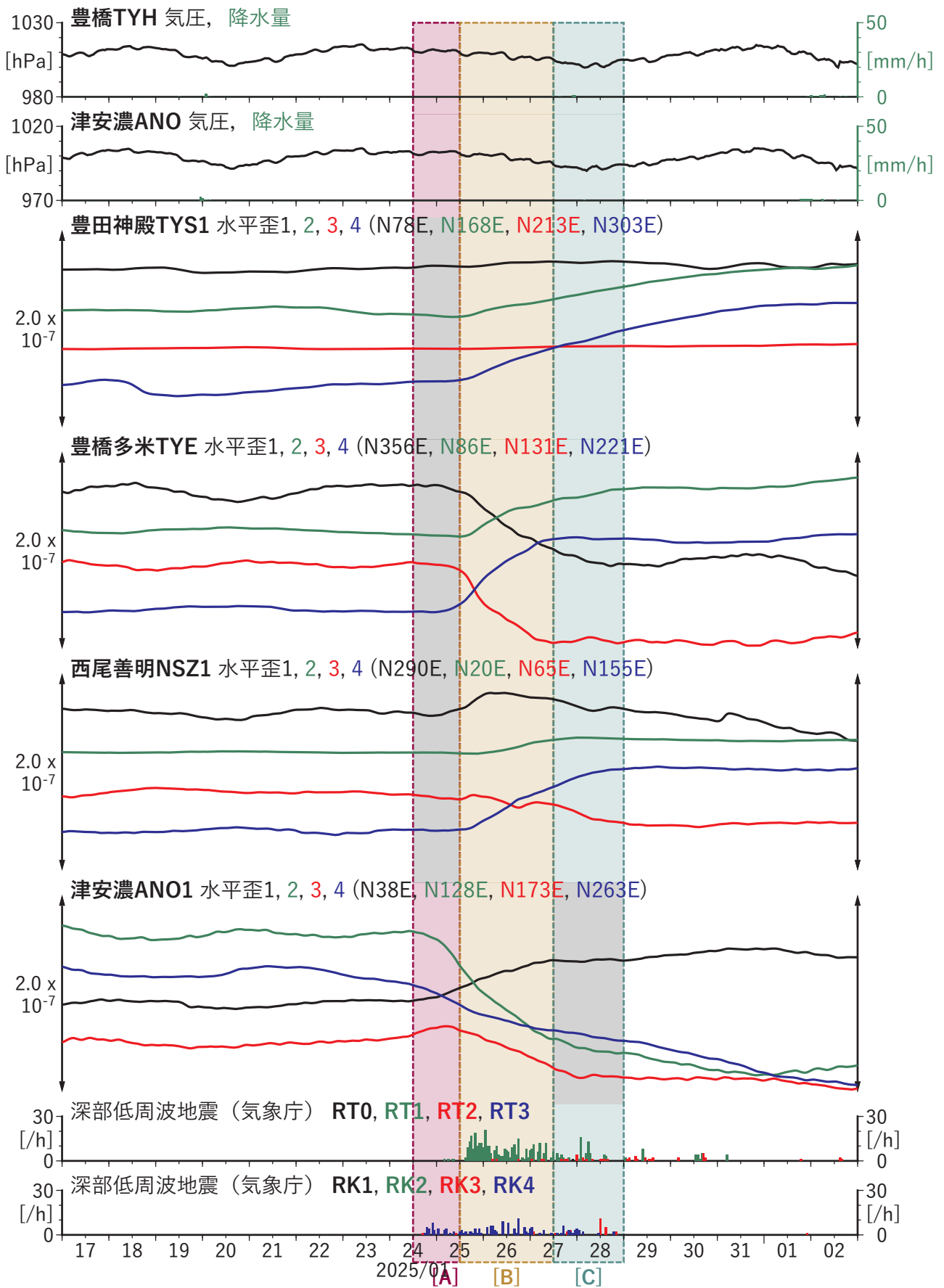


図5 歪・傾斜・地下水位の時間変化(1) (2025/01/17 00:00-2025/02/03 00:00 (JST))

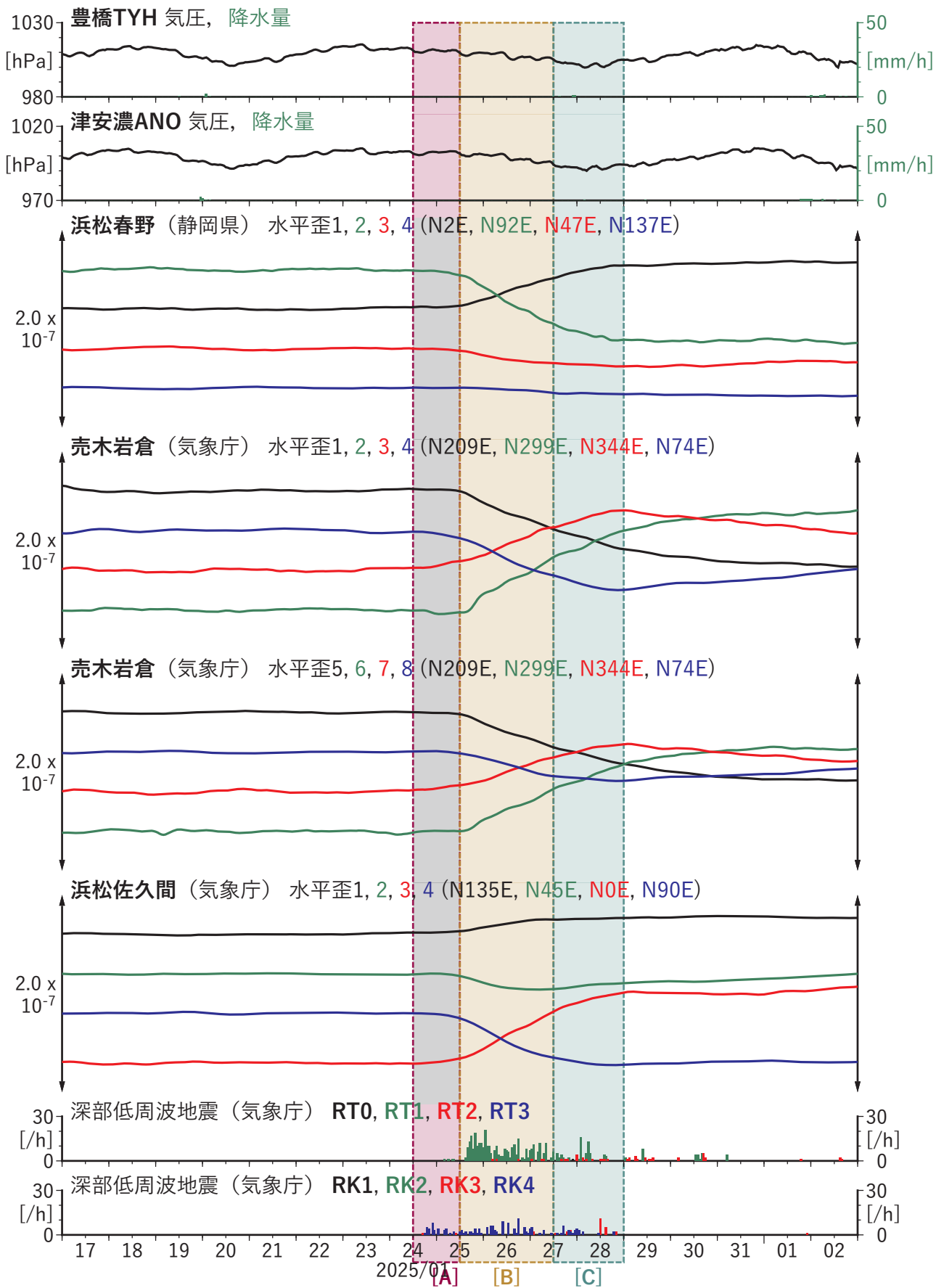


図5 歪・傾斜・地下水位の時間変化(2) (2025/01/17 00:00-2025/02/03 00:00 (JST))

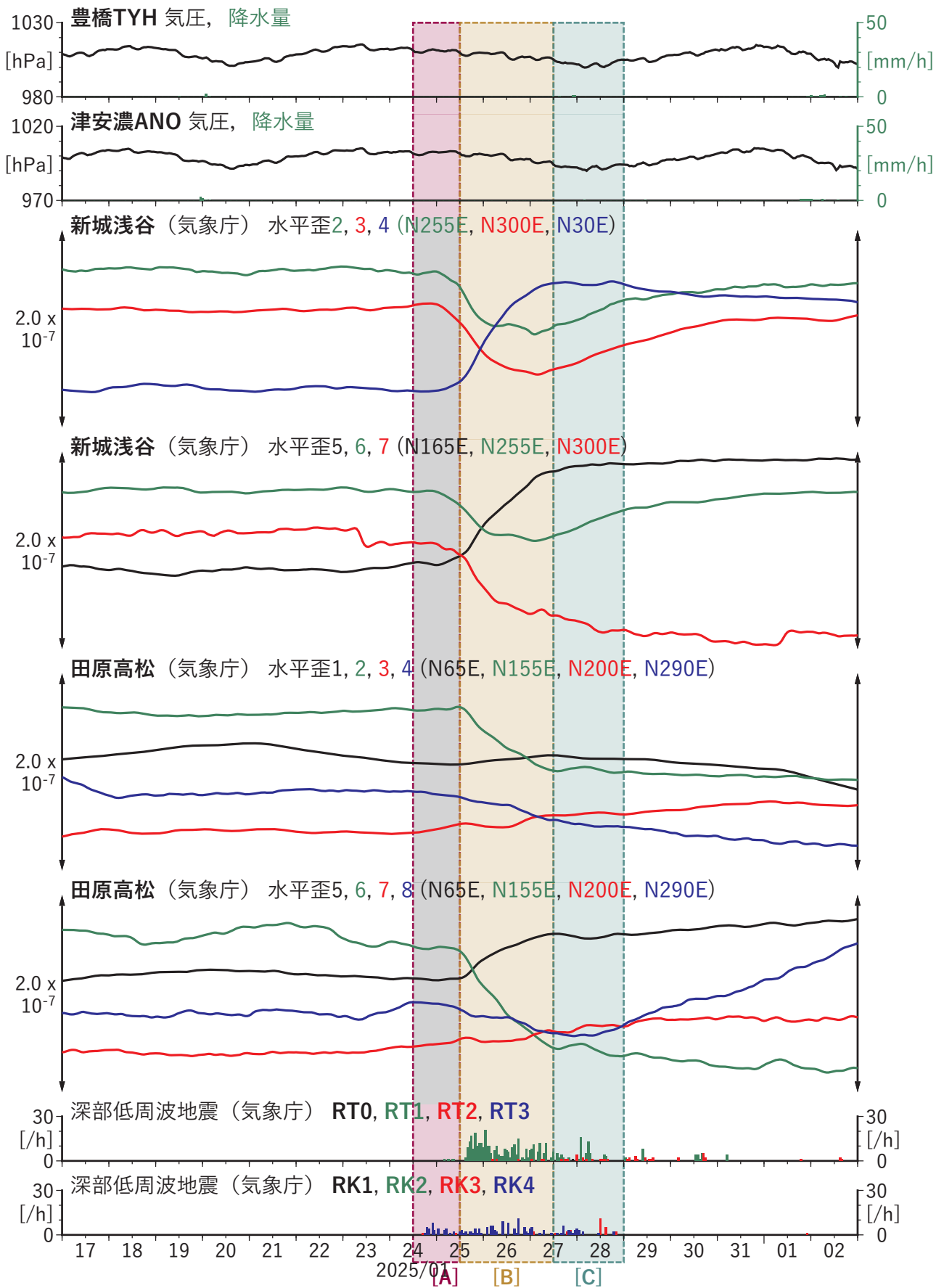


図5 歪・傾斜・地下水位の時間変化(3) (2025/01/17 00:00-2025/02/03 00:00 (JST))

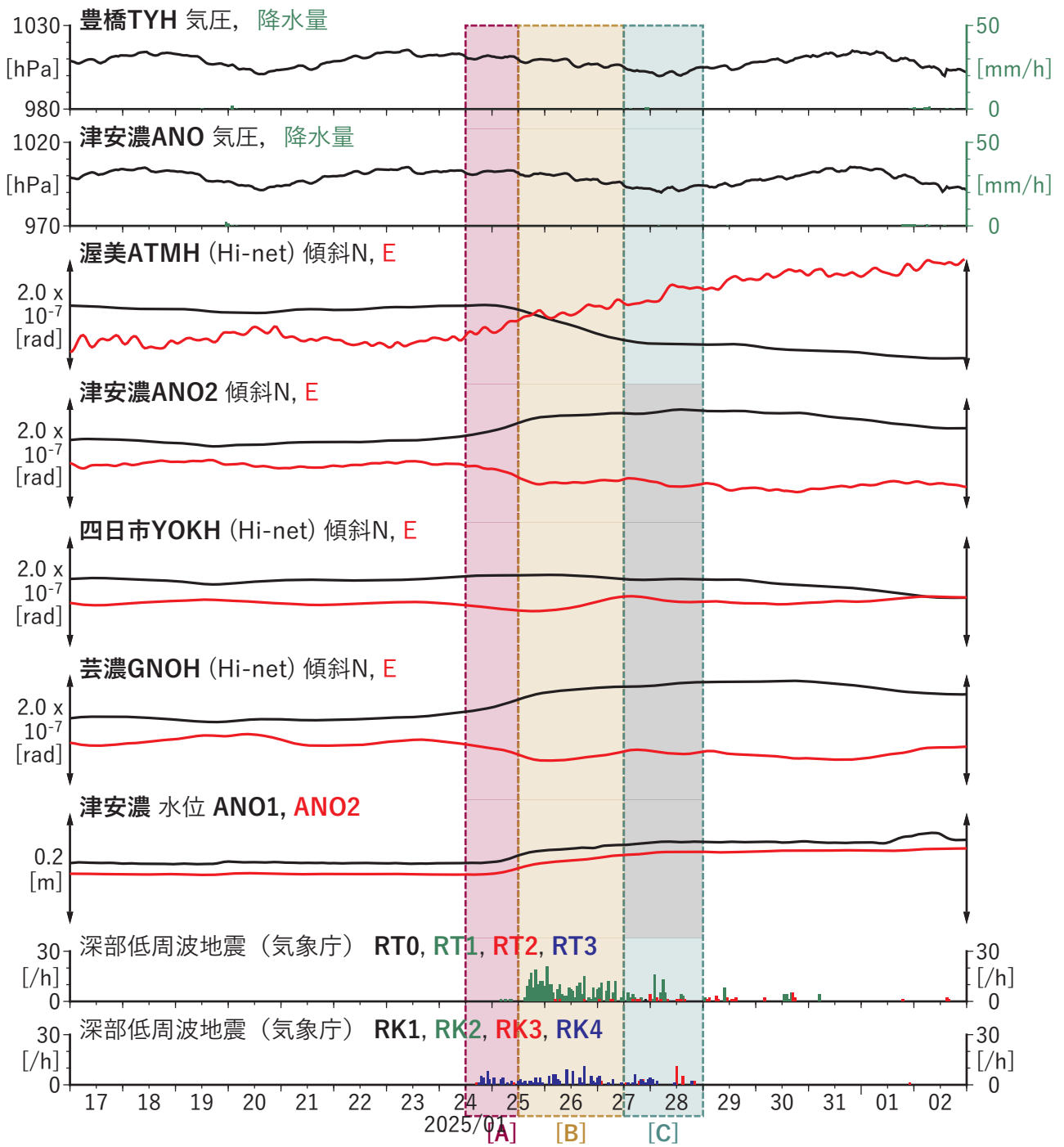


図5 歪・傾斜・地下水位の時間変化(4) (2025/01/17 00:00-2025/02/03 00:00 (JST))



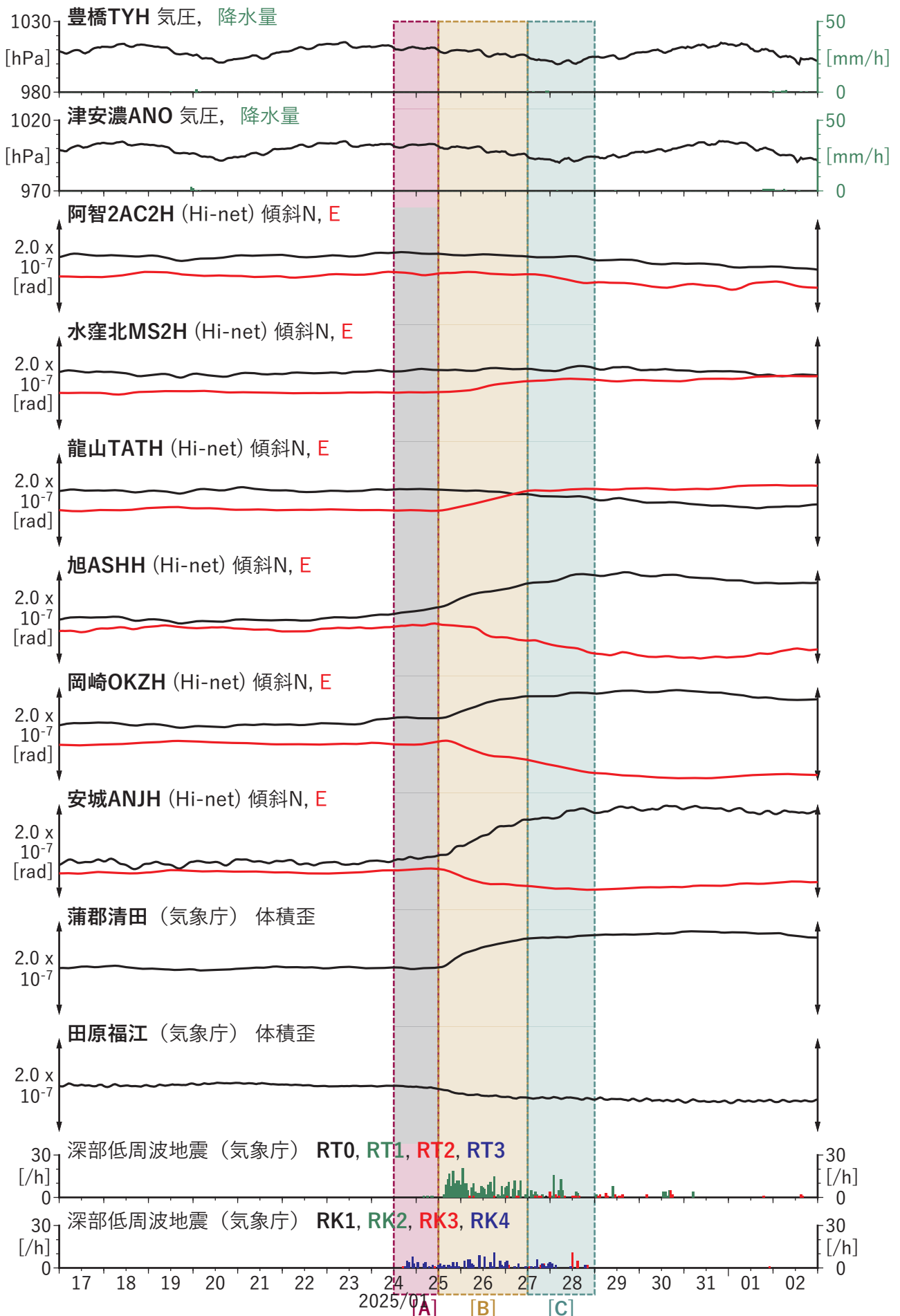
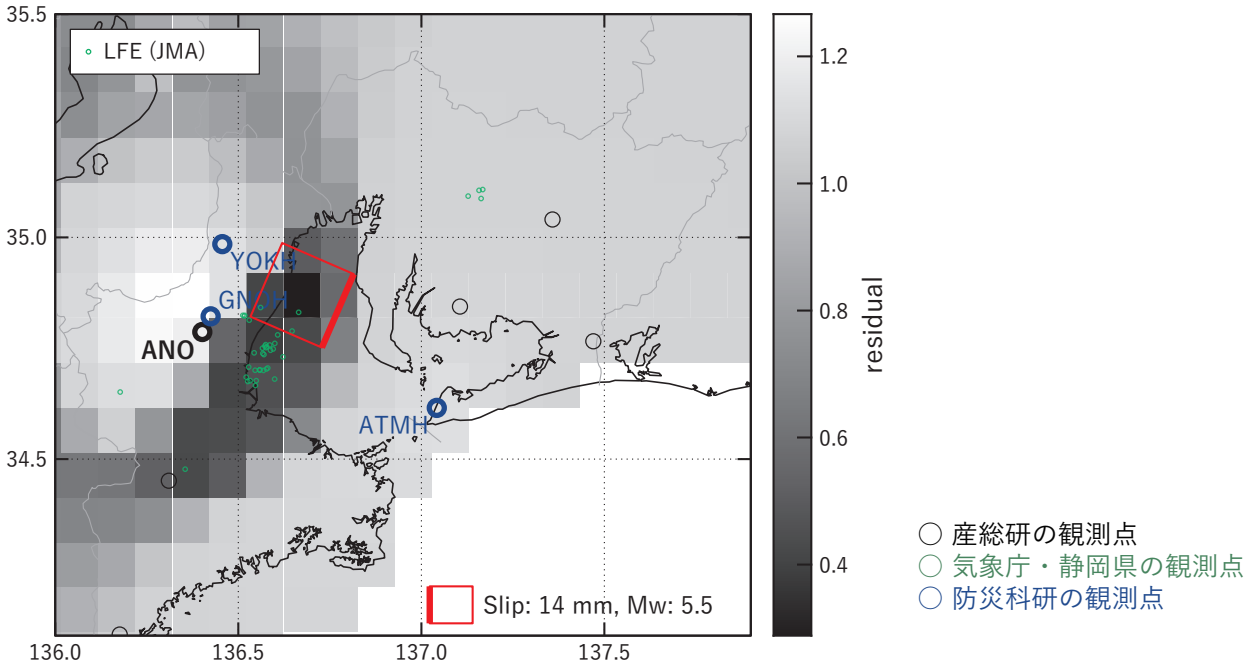


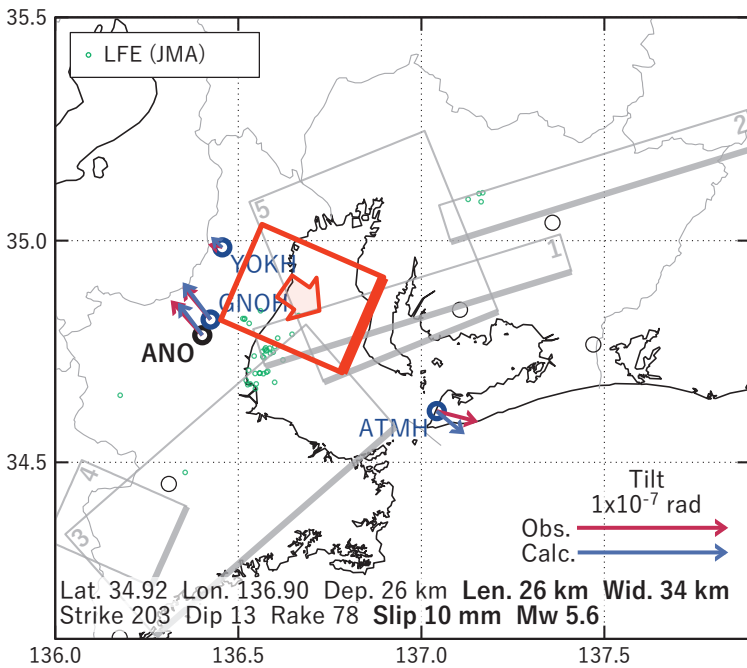
図5 歪・傾斜・地下水位の時間変化(5) (2025/01/17 00:00-2025/02/03 00:00 (JST))

### [A] 2025/01/24PM-25AM

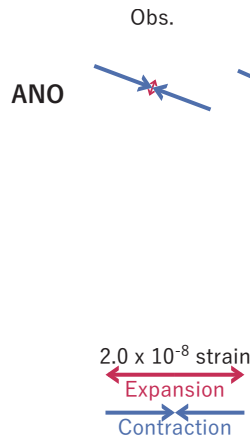
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

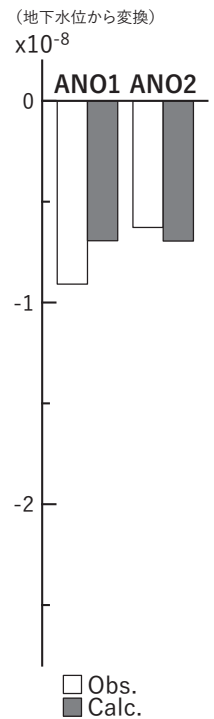
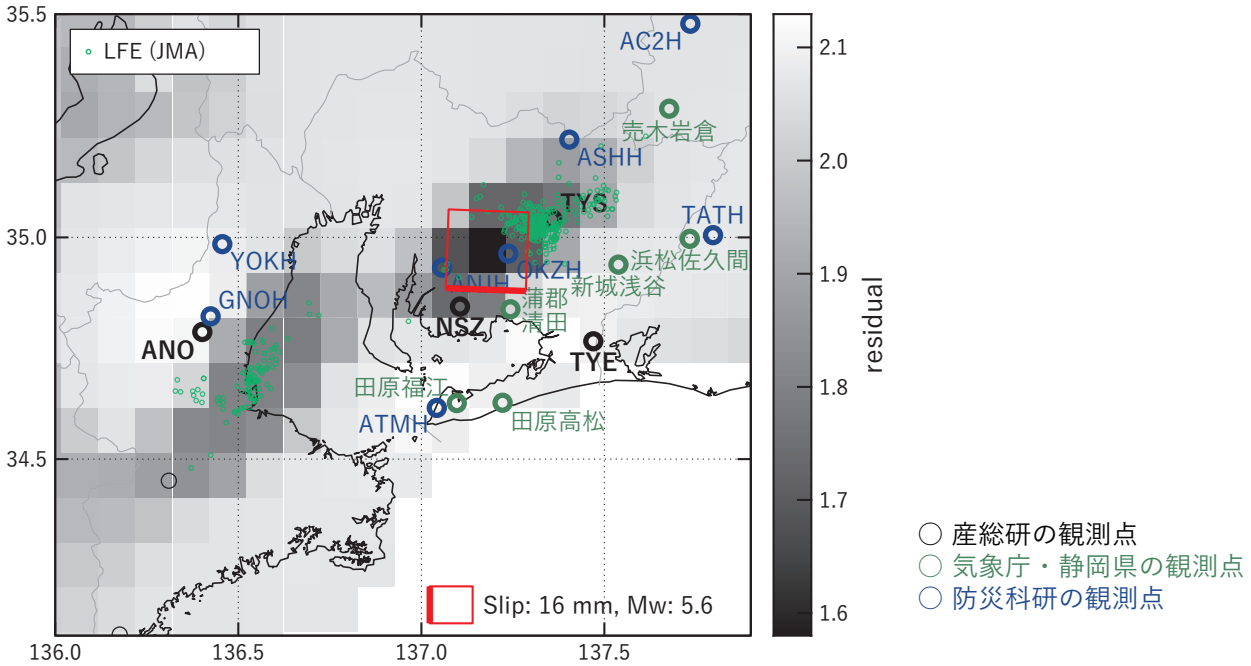


図6 2025/01/24PM-25AMの歪・傾斜・地下水位変化（図5[A]）を説明する断層モデル。

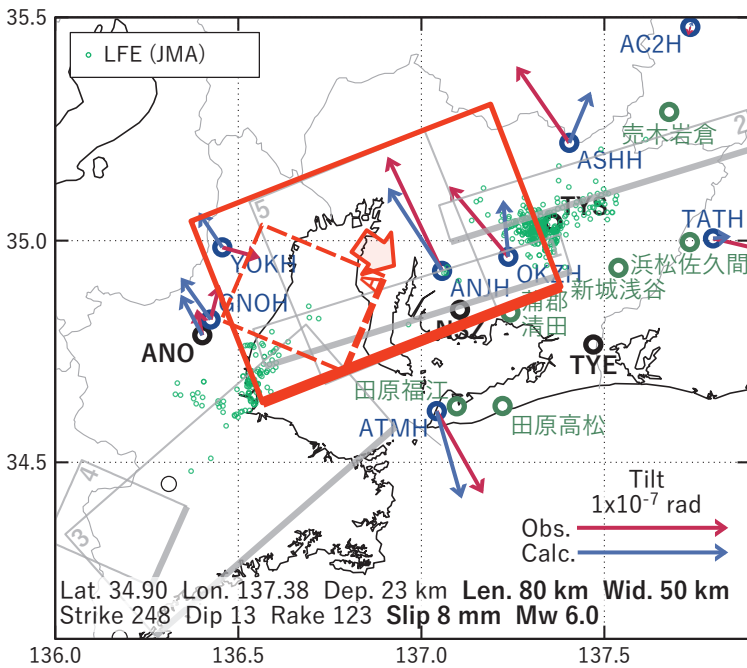
- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。  
1: 2024/08/14PM-16AM (Mw 5.4), 2: 2024/08/13-16 (Mw 5.4), 3: 2024/12/11-13AM (Mw 5.8),  
4: 2024/12/13PM-17AM (Mw 5.8), 5: 2025/01/12-17 (Mw 5.9)
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。
- (b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

**[B] 2025/01/25PM-27AM**

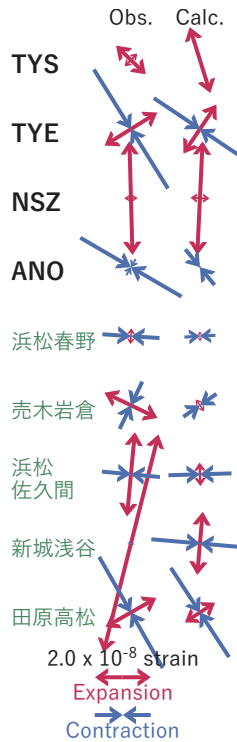
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

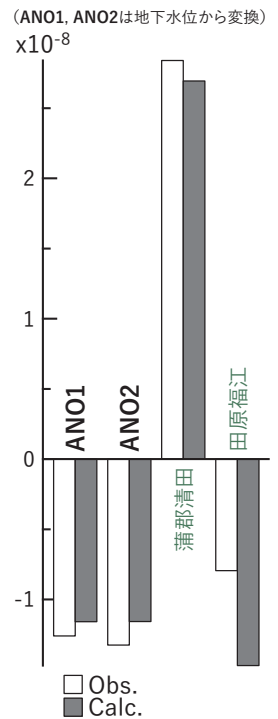
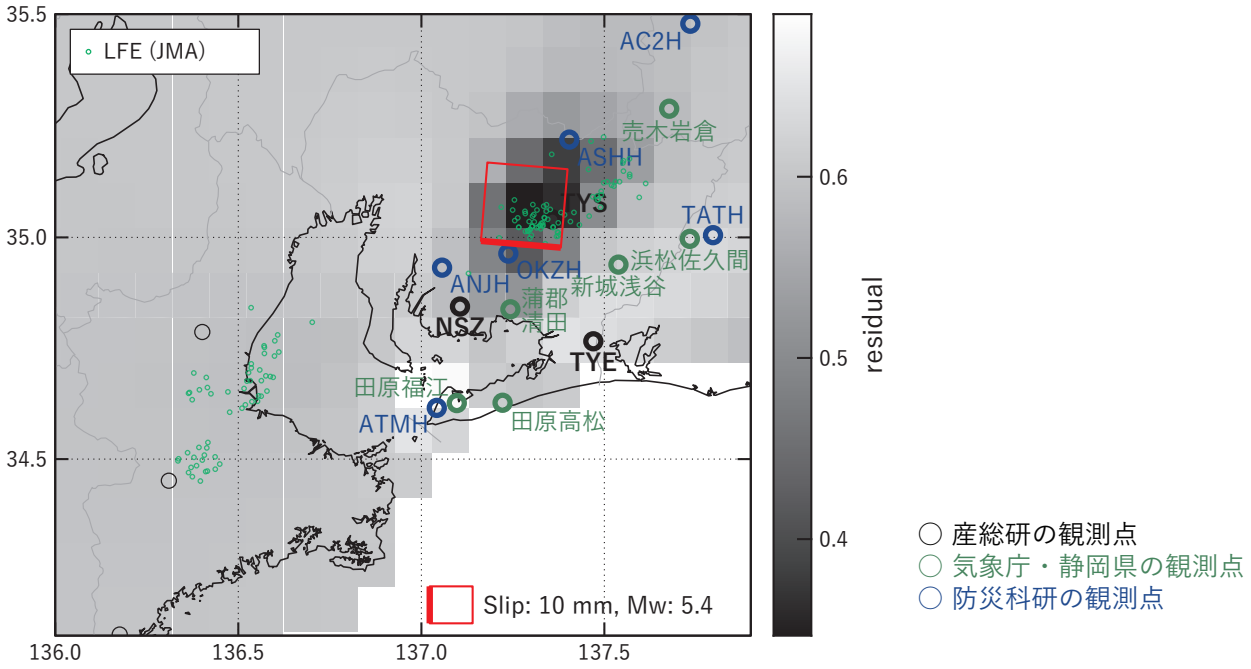


図7 2025/01/25PM-27AMの歪・傾斜・地下水位変化（図5[B]）を説明する断層モデル。

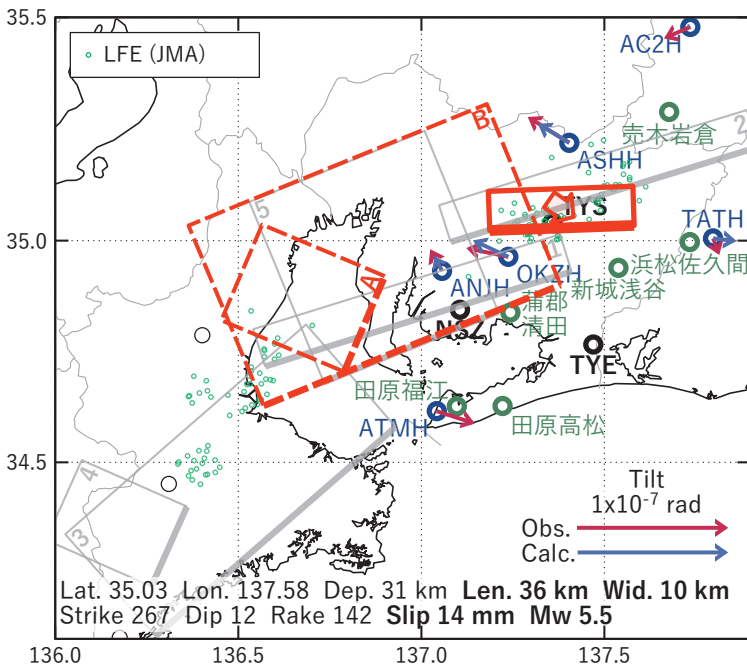
- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。  
 1: 2024/08/14PM-16AM (Mw 5.4), 2: 2024/08/13-16 (Mw 5.4), 3: 2024/12/11-13AM (Mw 5.8),  
 4: 2024/12/13PM-17AM (Mw 5.8), 5: 2025/01/12-17 (Mw 5.9), A: 2025/01/24PM-25AM (Mw 5.6)
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。
- (b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[C] 2025/01/27PM-28

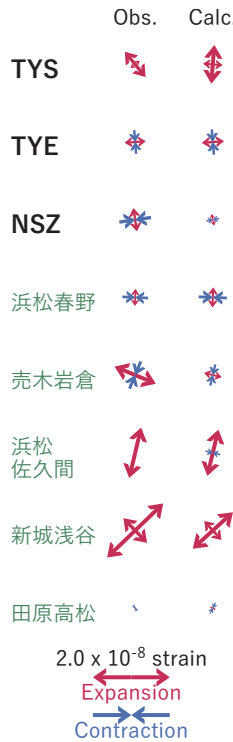
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

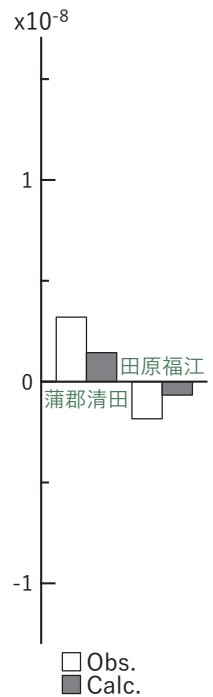


図8 2025/01/27PM-28の歪・傾斜変化(図5[C])を説明する断層モデル。

- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。  
 1: 2024/08/14PM-16AM (Mw 5.4), 2: 2024/08/13-16 (Mw 5.4), 3: 2024/12/11-13AM (Mw 5.8),  
 4: 2024/12/13PM-17AM (Mw 5.8), 5: 2025/01/12-17 (Mw 5.9), A: 2025/01/24PM-25AM (Mw 5.6)  
 B: 2025/01/25PM-27AM (Mw 6.0)
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。
- (b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

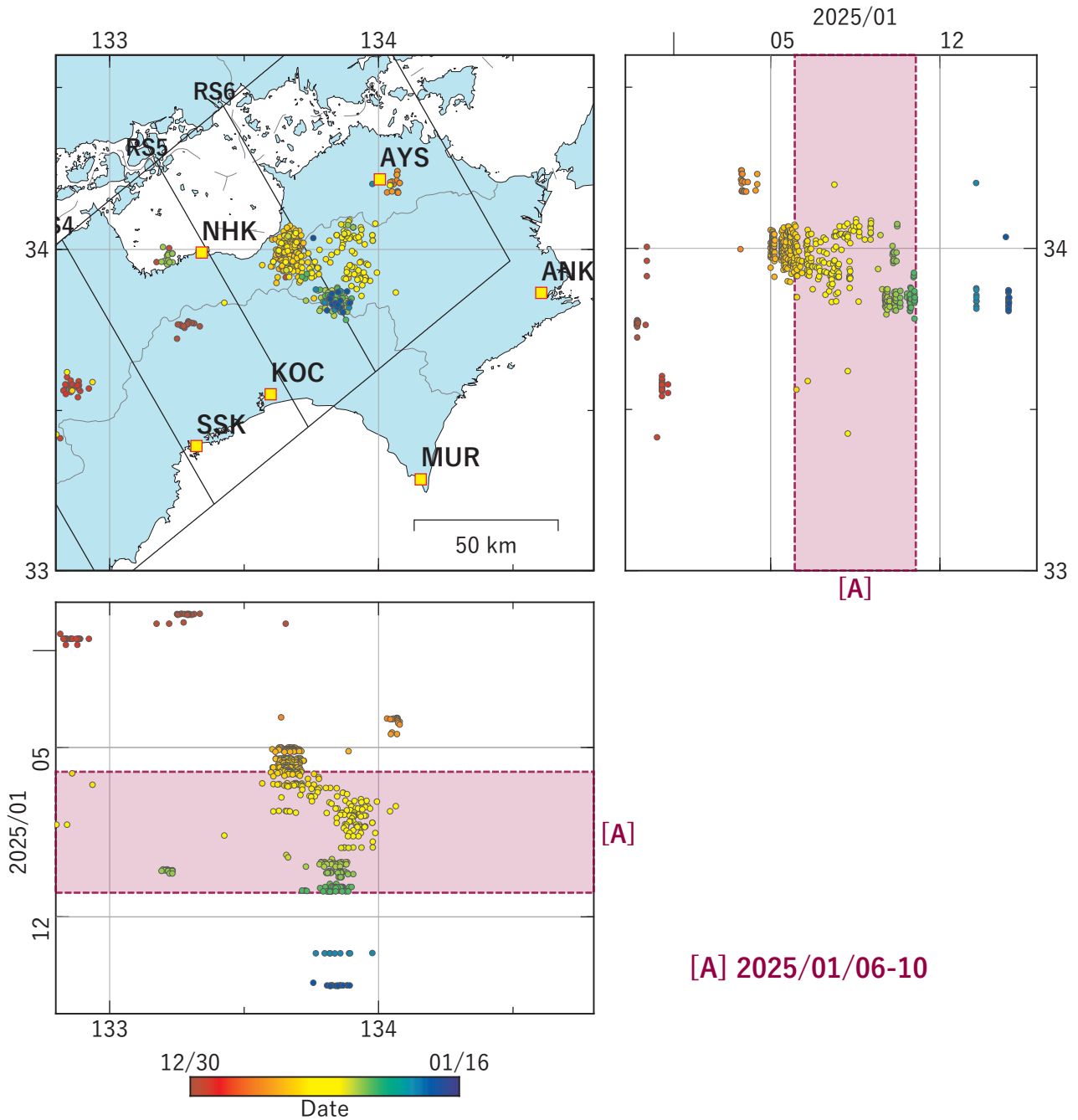


図9 四国地域における深部低周波地震の時空間分布図（2024/12/30 00:00:00-2025/01/16 00:00:00 (JST)）。気象庁カタログによる。  
 （観測点） ANK: 阿南桑野, AYS: 綾川千疋, MUR: 室戸岬, NHK: 新居浜黒島, KOC: 高知五台山, SSK: 須崎大谷

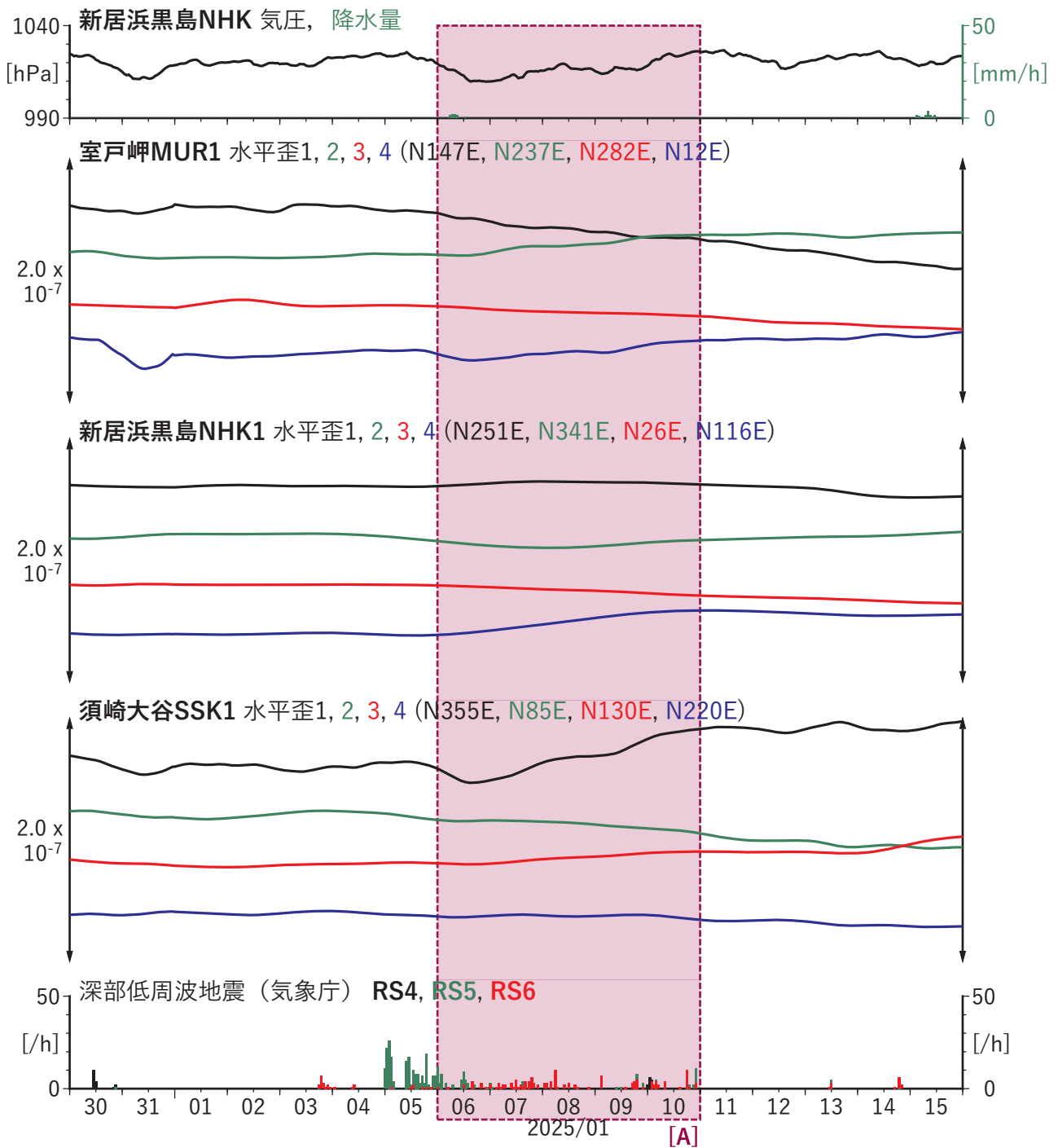


図10 歪・傾斜の時間変化(1) (2024/12/30 00:00-2025/01/16 00:00 (JST))

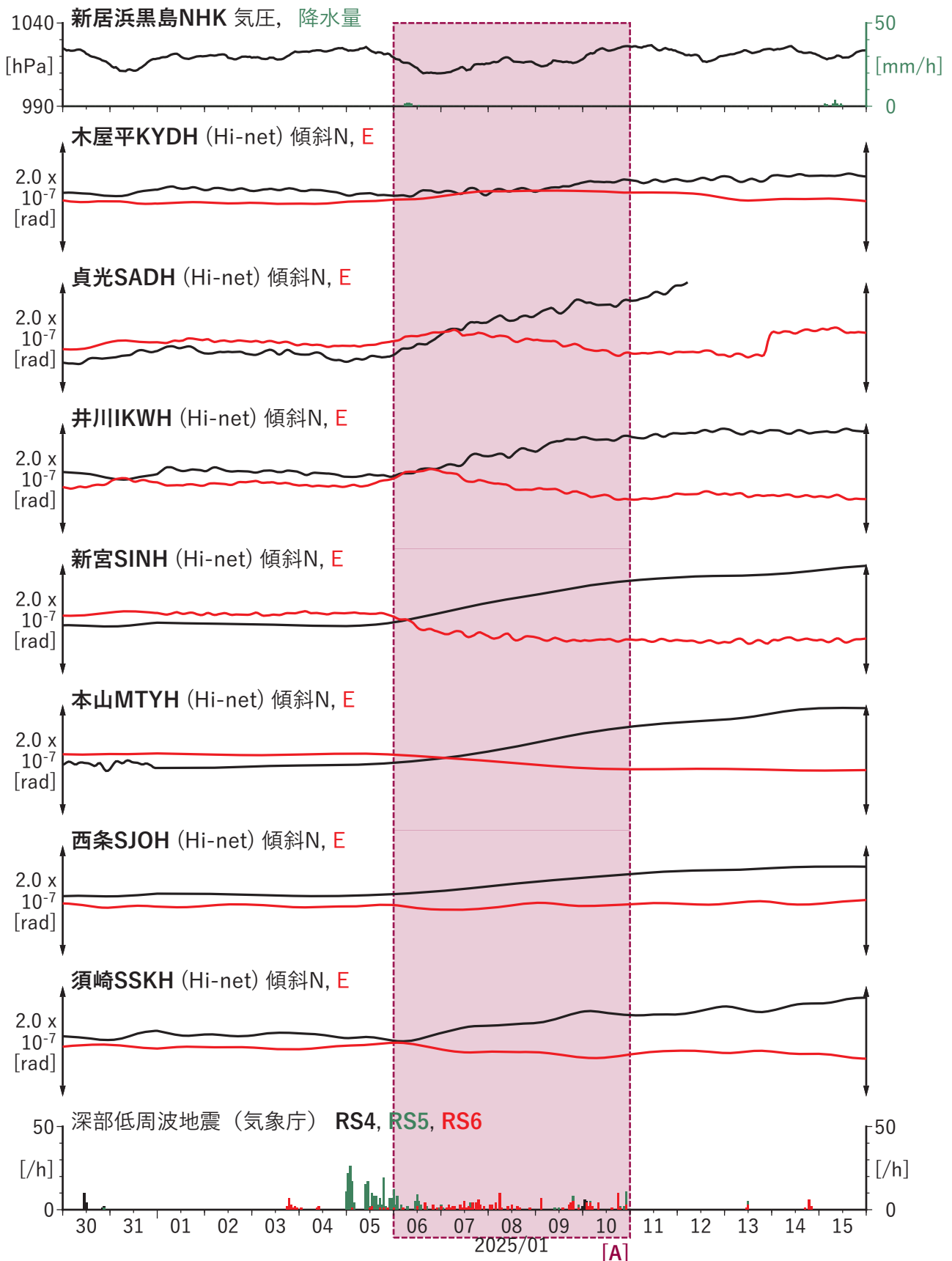
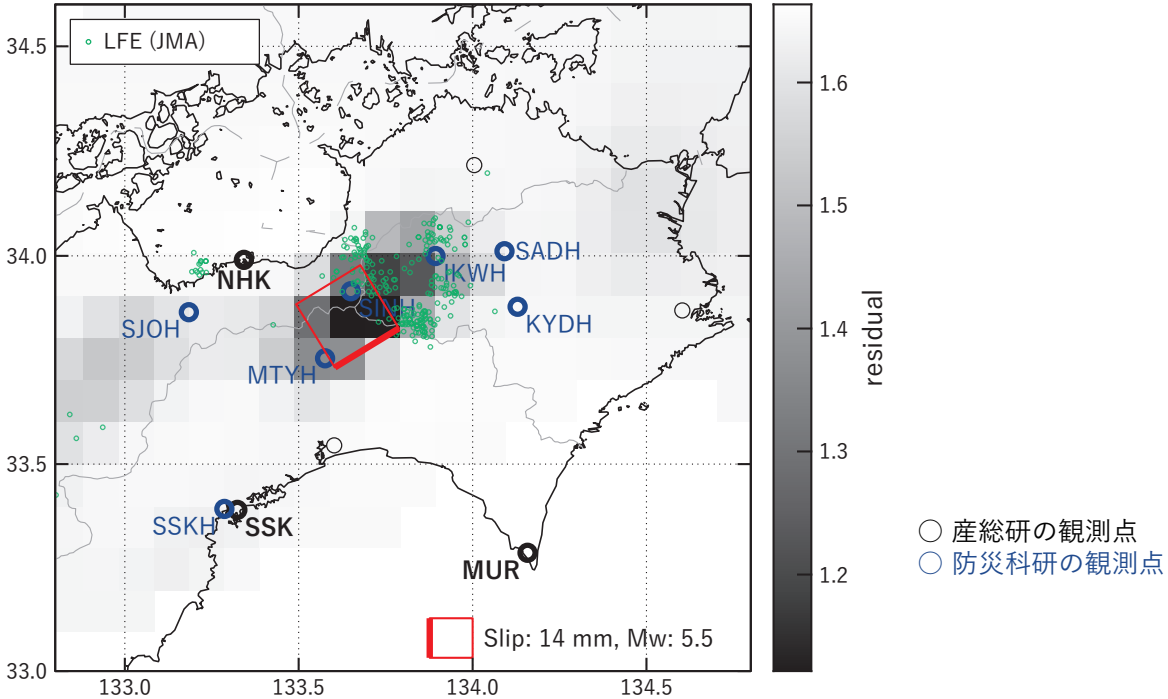


図10 歪・傾斜の時間変化(2) (2024/12/30 00:00-2025/01/16 00:00 (JST))

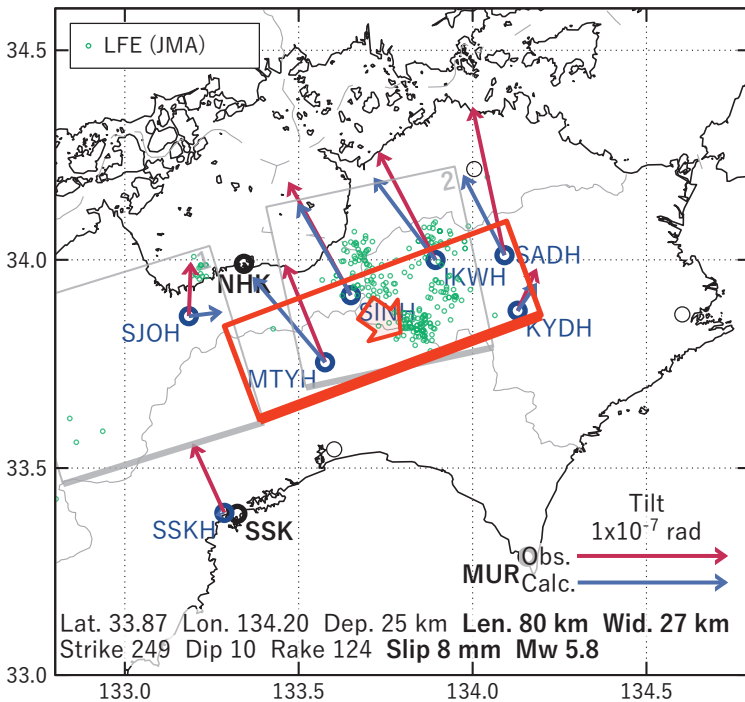


[A] 2025/01/06-10

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

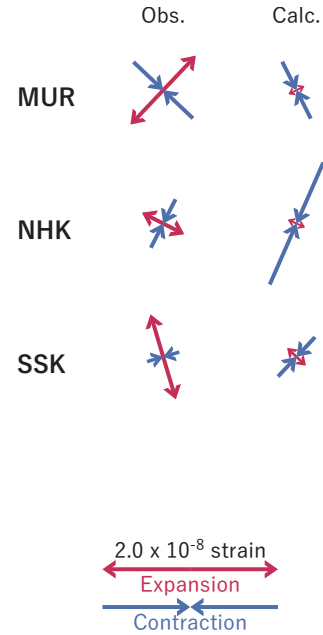


図11 2025/01/06-10の歪・傾斜変化(図9[A])を説明する断層モデル。

- (a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。  
1: 2024/06/21-27AM (Mw 6.1), 2: 2024/10/10-12 (Mw 5.7)
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。



## 2025年1月13日の日向灘の地震（M6.6）前後の産総研の水位・ひずみ変化

産業技術総合研究所

2025年1月13日に日向灘にてM6.6（Mw6.7）の地震が発生した。高知県の土佐清水松尾観測点の地震前後の水位・ひずみ変化を報告する。

図1に土佐清水松尾の水位・ひずみの時系列グラフを示す。

黒色の線は測定値を、緑色の線は地球潮汐による変動などを除去した後の時系列を示す。

注意事項：地震時のステップおよび地震前後のトレンド変化に注視して時系列グラフを作成したため、グラフの上下が切れている例がある。

図2に土佐清水松尾のひずみの地震後の変化の解析結果を示す。

★土佐清水松尾 TSS（高知県土佐清水市）：図1、図2

地震時のひずみにステップ状の小さい変化が認められる。

地震後のひずみ変化は約1日で終息した。過去の事例の継続時間は1日程度。

ひずみ変化の伸び縮みパターンは、過去に観測された地震後の変化と同様である。

地震後に孔2の水位が低下しているが、過去に観測された地震後の変化と同様である。

地震後のひずみ変化については、広域の地殻変動ではなく、観測点周辺での環境変化（地下水流動や応力場の変化等）の可能性が高いと考えている。

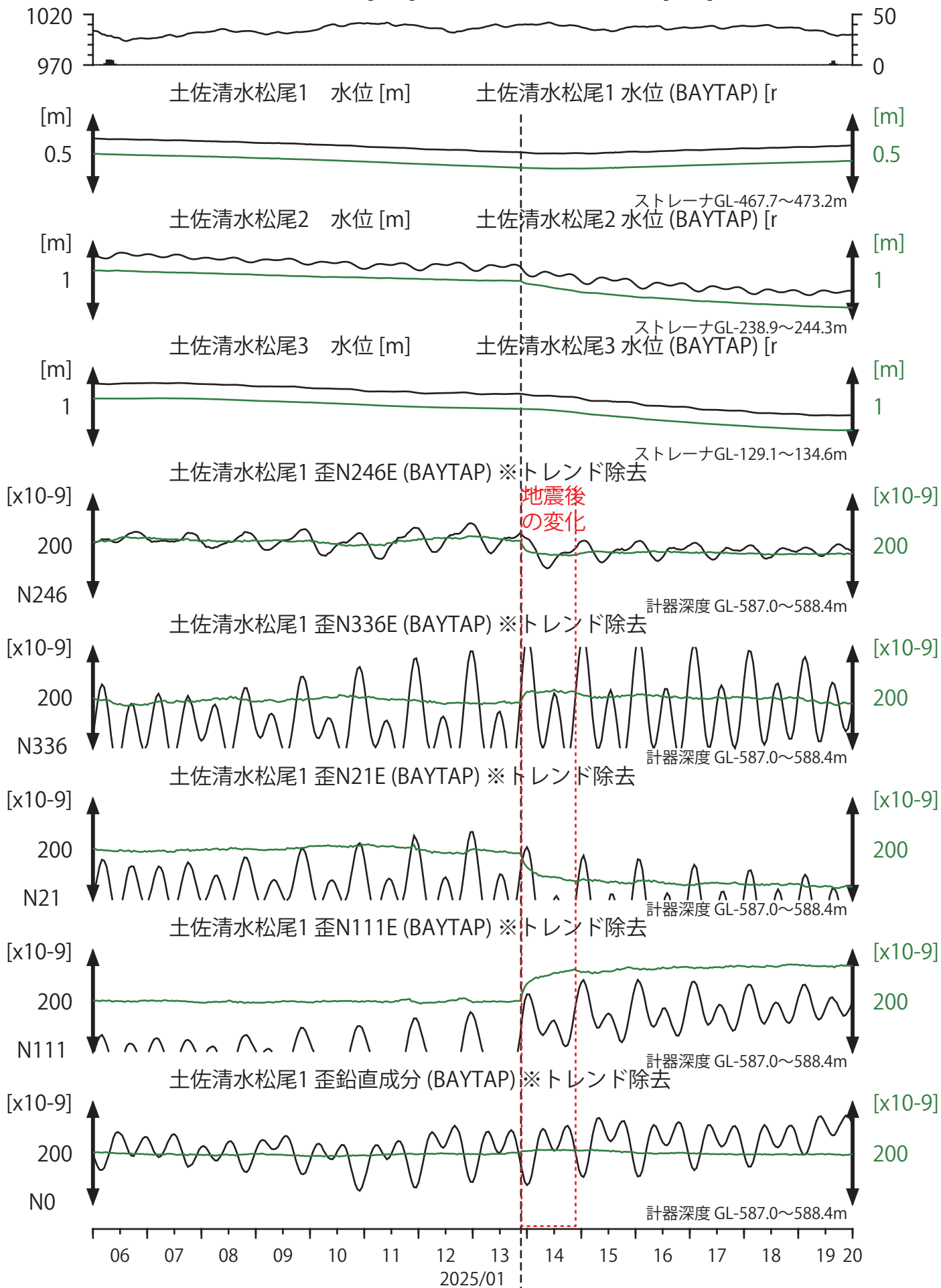
以上

図 1

TSS 土佐清水松尾 地下水位・歪  
(2025/01/06 00:00 - 2025/01/20 00:00 (JST))



土佐清水松尾 気圧 [hPa]      土佐清水松尾 雨量 [mm]



1月13日  
日向灘の地震  
(M6.6, Mw6.7)

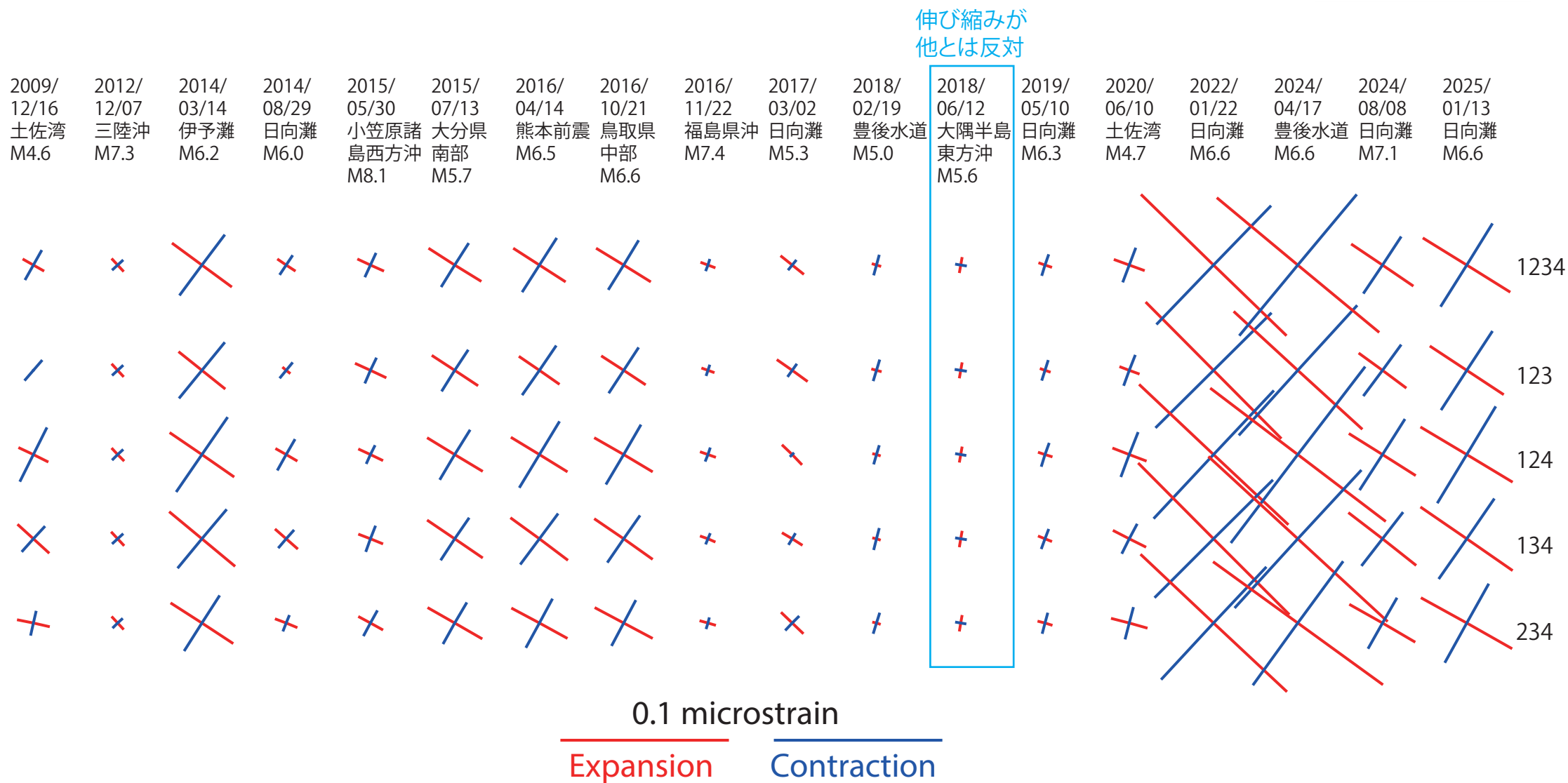


図2 地震後1日間の土佐清水松尾のひずみ変化の主歪場(18例)  
地震時のステップは除去済み